

**令和6年度大学教育再生戦略推進費
「大学の世界展開力強化事業」 計画調書
～EU諸国等との大学間交流形成支援～**

[基本情報]

タイプA

1 大学名 <small>(○が代表申請大学)</small>	広島大学		
2 機関番号	<small>代表申請大学</small>	15401	
3 主たる交流先の相手国	イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ		
4 事業者 <small>(大学の設置者)</small>	ふりがな おち みつお (氏名) 越智 光夫	(所属・職名) 国立大学法人広島大学・学長	
5 申請者 <small>(大学の学長)</small>	ふりがな おち みつお (氏名) 越智 光夫		
6 事業責任者	ふりがな かねこ しんじ (氏名) 金子 慎治	(所属・職名) 理事・副学長(グローバル化担当)	
7 プログラム名	【和文】 日・欧州の海洋経済安全保障と持続可能性を支えるAI次世代人材育成プログラム		
	【英文】 Training program for Next Generation Leaders in AI in Maritime Economic Security and Sustainability (Japan-Europe)		
8 分野 <small>(該当ある場合のみ)</small>	<input type="checkbox"/> 半導体 <input checked="" type="checkbox"/> AI <input type="checkbox"/> 量子技術 <input type="checkbox"/> バイオ技術	左記のうち、主たる1分野があれば選択	AI
9 取組学部・研究科等名 <small>(必要に応じ[]書きで課程区分を記入。複数の部局で合わせて取組を形成する場合は、全ての部局名を記入。大学全体の場合は全学と記入の上[]書きで全ての部局名を記入。)</small>	<small>学問分野</small>	<input checked="" type="radio"/> 理工系 <input type="radio"/> 農学系 <input type="radio"/> 医歯薬系 <input type="radio"/> 看護・医療系 <input type="radio"/> 全学 <input type="radio"/> その他	
	<small>実施対象 (学部・大学院)</small>	<input type="radio"/> 学部 <input type="radio"/> 大学院 <input checked="" type="radio"/> 学部及び大学院	
	全学[総合科学部、文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、生物生産学部、情報科学部、人間社会科学研究科、先進理工系科学研究科、統合生命科学研究科、医系科学研究科、スマートソサイエティ実践科学研究院]		

10. 海外相手大学				
	国名	大学名(日本語)	大学名(英語)	部局名
1	イタリア	ベニス大学	Ca' Foscari University of Venice	全学
2	オーストリア	グラーツ大学	University of Graz	全学
3	スウェーデン	世界海事大学	World Maritime University	全学
4	スペイン	バスク大学	University of the Basque Country	全学
5	ドイツ	ライプツィヒ大学	Leipzig University	全学
6				
7				
8				
9				
10				

11. 連携してプログラムを実施する機関(国内連携大学等)					
	大学等名	取組学部・研究科等名		大学等名	取組学部・研究科等名
1			4		
2			5		
3			6		

(大学名: 広島大学) タイプA

12. 「学校教育法施行規則」第172条の2第1項において「公表するものとする」とされた教育研究活動等の状況について、公表しているHPのURL

[https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/public info/education research info](https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/public%20info/education%20research%20info)

13. 本事業経費 (単位:千円) ※千円未満は切り捨て

年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	合計	
事業規模 (総事業費)	14,500	16,000	16,000	16,000	16,000	78,500	
内訳	補助金申請額	14,500	16,000	16,000	10,480	5,200	62,180
	大学負担額				5,520	10,800	16,320

14. 本事業事務総括者部課の連絡先

部課名			所在地		
責任者	ふりがな (氏名)			(所属・職名)	
担当者	ふりがな (氏名)			(所属・職名)	
	電話番号			緊急連絡先	
	e-mail(主)			e-mail(副)	

(大学名:広島大学) タイプA

質の保証を伴った交流プログラムの目的と内容									
① 交流プログラムの目的・概要等【1 ページ以内】									
【交流プログラムの目的及び概要等】									
<p>○背景:膨大なデータを処理し、推論を通じて意思決定を支援する AI 技術は、フェイク情報、プライバシーや著作権の保護等の懸念はありつつも、経済や社会に新たな価値をもたらし、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成においても重要な役割を果たす。とりわけ、安全な航行のため AI による制御が必須となる船舶の自動運転や、膨大なデータ解析に AI が活用される気象・海象予測等、従来からデータの宝庫と言われ、新たなデータの生成が予定される<u>海洋・海事分野</u>は、AI 技術の活用によって大きな影響を受けており、世界最大の排他的経済水域を有する EU と海洋国家である我が国にとって共通の、<u>経済安全保障</u>上きわめて重要な分野である。</p> <p>○目的:本事業は、これまで本学が取り組んできた欧州の複数大学との学際的な修士ジョイント・ディグリープログラム(JD)に「SDGs における AI 技術応用」と「海洋・海事」の専門科目を組み込み、分野の拡張を行うことを目的とし、AI 及び海洋・海事分野の最先端研究・教育プログラムを行う欧州の大学を新たに招聘し、AI 技術を活用したデータ分析や予測技術を通じた持続可能な海洋・海事の実現に貢献する「日・欧州の海洋経済安全保障と持続可能性を支える AI 次世代人材」の育成に取り組む。</p> <p>○プログラムの内容及び特徴:</p> <p>(1) オンラインと実渡航を効果的に組み合わせ、<u>海洋・海事分野における AI の応用</u>を段階的に学ぶことのできる4段階のプログラムを主に日・欧州の修士学生向けに提供する。</p> <p>① <u>海洋・海事分野における AI デジタル技術の活用に関する双方向型のオンラインセミナー</u>を実施する。参加学生には、同分野における基礎的な知識を習得させるとともに、実渡航への意欲や関心を高めさせる。また、<u>意欲のある学部学生も参画</u>させ、将来の留学に対するモチベーションを喚起させる。</p> <p>② <u>海洋・海事分野における最先端 AI 技術の応用について日・欧州の修士学生が協働で学ぶハイブリッド型のサマーコース</u>を日本と欧州で隔年開催する。参加学生は、<u>海洋・海事に関わる機関・企業や製造現場等の見学</u>を通じて、<u>海洋・海事分野における次世代モノづくり技術や、高解像・高精度な環境変動予測技術等の AI 技術の実現場での応用事例</u>を学びつつ、各地域における現状を把握し、課題を探り、課題解決に向けた提案を行う。また、毎年開催場所を変更することで、異なるバックグラウンドを有する地域の事例を活用し内容のブラッシュアップを図る。</p> <p>③ 本学と海外連携大学間で<u>セメスター留学の派遣／受入</u>を実施する。参加学生には、これまで学修してきた専門知識と経験を元に、国際環境の中で自己のテーマを広く高い視野から俯瞰し発展させると同時に、異文化理解力、課題発見・解決力を身につけさせる。</p> <p>④ <u>セメスター留学の期間中に、学生のニーズや希望を踏まえ大学内外のラボや国際機関等でのインターンシッププログラム</u>を実施する。参加学生は、様々なバックグラウンドを持つ研究者から修士論文作成に向けた指導を受けるとともに、将来のキャリアの基盤となる企業等・大学・学生等の国際的なネットワーク構築を図り、活動を通じてより高度な専門知識と技術、研究力、実務能力等を身につけさせる。</p> <p>(2) <u>研究ワークショップや修士学生の共同指導等</u>を通じた研究者交流を推進するとともに、国際共同学位プログラムの企画・実施・運営を中心とした<u>多国間教育モデル</u>について共に学びあう機会を創出する。</p> <p>○期待される成果:</p> <p>(1) 強固な研究者同士のネットワーク及び大学間のパートナーシップを構築し、海外連携大学の有する欧州大学のアライアンスも活用することで、<u>将来の欧州における研究・学生交流の基盤を形成</u>する。</p> <p>(2) 既存の欧州の複数大学との SDGs の学際的な修士 JD のフレームワークの中に、「SDGs における AI 技術応用」と「海洋・海事」を専門科目として組み込むことで、<u>事業5年目までにプログラムの分野の拡張</u>を図る。</p> <p>(3) 事業の共同実施を通じ、JD/ダブル・ディグリー (DD) など国際連携学位プログラムの新設を視野に入れたカリキュラムの共有化・共通化を図り、事業 5 年目までに <u>JD/DD による新規の国際共同学位プログラム</u>を構築する。</p> <p>(4) 国際共同学位プログラムの拡張・新設により、本学及び我が国の学部学生に対し、<u>修士段階における海外での理系学位取得の新たな選択肢</u>を提供する。</p>									
【養成する人材像】									
本事業では、日・欧州の経済安全保障に資する重要な分野である AI、海洋・海事について学際的かつ国際通用性のある視野、知識、研究力、経験を有し、それらを SDGs の達成に貢献できる形で正しく応用することで新たな価値を生み出し、持続可能でより良い社会の発展に貢献できる <u>高度な専門家、技術者及び政策立案者を養成</u> する。									
【本プログラムで計画している交流学生数】 各年度の派遣及び受入合計人数 (交流期間、単位の取得の有無は問わない)									
2024 年度		2025 年度		2026 年度		2027 年度		2028 年度	
派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
13	10	23	30	28	20	23	30	28	20

② プログラムの概念図【1 ページ以内】

日・欧州の海洋経済安全保障と持続可能性を支える AI次世代人材育成プログラム



- 広島大学のAI・海洋・海事国際拠点形成の取組**
- 2008 欧州4大学(グラーツ大、ライプツィヒ大、ペニス大、コトレヒト大) + 広島大(モビリティ大) 「持続可能な開発のための国際共同修士プログラム」
 - 2020 広島大-グラーツ大/ライプツィヒ大 ジョイントディグリープログラム：サステナビリティ学国際連携専攻 AI・データイノベーション教育研究センター (AIDセンター) 開設
 - 2023 President 5 initiatives for Peace & Sustainability 「海洋・海事のガバナンスと持続可能性のためのアジア拠点形成」
大学院スマートソサイエティ実践科学研究院の設置
呉市・広島大・海上保安大・菅川平和財団 「アジアにおける新たな海洋・海事の国際的拠点の形成」
瀬戸内CN国際共同研究センターの設置
広島大学創発的次世代AI人材育成・支援プロジェクト採択
大学高専機能強化支援事業 「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援(ハイレベル枠)」採択
 - 2024 包括協定：広島大学、海上保安大学校と全国5つの商船系高等専門学校

第4次海洋基本計画(2023.5) AI戦略2022

日-欧州教育研究パートナーシップ

海洋安全保障戦略・行動計画 (2023.10)

経済安全保障戦略(2023.6)

日・欧州AI次世代人材育成モビリティ教育プログラム

01 Basics	02 Specialization	03 Integration	04 Application
国際協働性・基礎力	高度な専門知識と技術	問題解決能力	持続可能性への貢献
AI技術×海洋・海事 オンラインセミナー 協働学習 Host University 13人 × 10人 大学院共通科目 キャリア開発・データリテラシー 持続可能な発展 AIOps エンジニア育成 特定プログラム	サマーコース(2週間) 海洋・海事の実践的課題解決型教育 カーボンニュートラル船 自動運航船 浮体式洋上風力発電 海洋リモートセンシング 海洋情報リアルタイムモニタリング Mobility University 5人 × 10人	セメスター留学(5ヶ月) AI for SDGs WMU Marine & Maritime Science Climate Change Environmental Resource Management Environmental Assessment Mobility University 5人 × 5人	ラポインターン 国際的な学びと研究の接続 Mobility University 5人 × 5人 修士論文 Host University

広島大学AI・データイノベーション教育研究センター

広島大学瀬戸内CN国際共同研究センター

SmaS0 大学院スマートソサイエティ実践科学研究院

Town&Gown 広島大学 X 呉市

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点中国ブロック

広島大学大学院 先進理工系科学研究科

IDEC 広島大学IDEC国際連携機構

広島大学 NERPS FE・SDGsネットワーク拠点

教員交流と共同研究による学術交流モビリティの全学的推進

研究ワークショップによる学術交流拡大 >> 共同指導による共同研究の実施 >> 研究力強化

日・欧州合同プログラムの質保証

共通教育ポリシーの策定と改善
国際共同教育・研究指導体制の確立(国際通用性)
日・欧州の最先端の科学技術教育

5年後の成果目標
国際共同学位(JD・DD)プログラムの設置

③ 国内大学等の連携図【1 ページ以内】

本学は 12 学部4研究科及び1研究科等連係課程実施基本組織を有する国内有数の総合大学(学生数: 15,858 人、教職員数:3,466 人:2024 年5月1日時点)であり、本事業の実施にあたっての資源及び経験を十分に有しているため、単独での実施は可能である。

また、本事業の実施を通じて得た知見や経験は、ウェブサイトや事業実施報告等により積極的に公開し、国内の他大学と成果の共有を行う。

上記理由により、本学単独による事業の実施及び、他大学との成果の共有は可能であり、申請の段階では国内大学等との連携は行わずに申請することが適切と判断した。

④ 交流プログラムの内容及び大学間交流の枠組み形成【8 ページ以内】

【実績・準備状況】

○質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成

広島大学はこれまで、スーパーグローバル大学創成支援事業(SGU)(タイプ A)や世界展開力強化事業等を実施し、全学として大学の国際化を積極的に推し進め、世界各地の大学と学生・研究交流を拡大してきた。2024 年5月現在、世界 56 か国・地域の 369 大学・機関と大学間交流協定を締結しており、EU 及び周辺の OECD 加盟国では、これまで 46 大学と大学間協定を締結している。本学の中期目標・中期計画及び、国際戦略の着実な推進のための国際交流の基盤を着実に形成、発展させている。

○大学の中長期的なビジョンにおける本事業の位置づけ

本事業は、「第4期中期目標期間における広島大学のあるべき姿」に掲げる「豊かな人間性と幅広い教養、秀でた専門的知識と課題発見・解決能力を備え、自由で平和な持続的発展を可能とする国際社会の実現に貢献する人材の育成」及び「リアル(現実)とバーチャル(仮想)を有効に組み合わせ時間や空間の制約を超えた、安心かつ安全で安定したグローバルな教育・学修・研究環境を提供」を具現化するものである。また、本事業で育成を目指す人材は、本学の建学の精神でもある「絶えざる自己変革」に主体的に取り組み、「新たな知の創造」を目指す学生の養成をその根底に有し、本学の長期ビジョン「SPLENDOR PLAN」で掲げる「変動する世界を俯瞰し、国際的にチャレンジする人財の輩出」に符合し、本学の目指す「多様性を育む自由で平和な国際社会」の実現に大きく貢献するものである。

①AI 教育・研究の取組

本学は、本学が特色を持つ半導体分野、キラルノット超物質、再生医療、創薬・GMP 製造、放射線災害管理などの特定領域と、人間社会科学分野を含む全学横断の総合力を活かし、画像認識、自然言語処理、音声処理、予測といった狭義の AI 技術のみならず、今後発展が見込まれる様々な AI 技術を用い、社会課題を克服することで我が国が目指す未来社会(Society5.0)の実現に貢献できる、次世代 AI 分野で活躍する人材育成を目指している。そのため、2020 年度に AI・データイノベーション教育研究センター(AIDI センター)を開設し、企業との共同研究や社会人のリスキリング教育を包括的に実施し、AI・情報・データサイエンス教育をすべての学部・研究科の学生に展開する全学横断的な AI 教育・研究のハブ機能を整備してきた。また、AIDI センターの「AI 部門」には、全学から外国人教員3名を含む 17 名の AI 研究の専門家を配置(2024 年度中にはさらに7名の外国人教員の新規配置予定)し、AI の活用が見込まれるあらゆる領域において AI 技術の発展に貢献する人材の育成環境を整えつつある。さらに、2024 年3月に科学技術振興機構(JST)の「国家戦略分野の若手研究者及び博士後期課程学生の育成事業(BOOST)次世代AI人材育成プログラム」の実施機関に採択され、AI技術により社会課題を克服することで、我が国が目指す未来社会(Society5.0)の実現に貢献し、次世代 AI 分野で活躍する博士課程後期学生の支援・育成を行っている。

②SDGs の達成に向けた取組

本学では、「持続可能な発展を導く科学の実践」を最上位ミッションとし、2018 年には SDGs 実現に貢献する世界的な教育研究拠点を目指す NERPS(Network for Education and Research on Peace and Sustainability)を設置、2020 年度には、2008 年度から参画してきた欧州大学とのコンソーシアム型国際共同修士プログラムを発展させる形で、「SDGs の実現への課題解決を目指す学際的な修士ジョイント・ディグリープログラム」を開始するなど、教育・研究両面で SDGs の達成に向けた人材育成の基盤を整備してきた。

③海洋・海事分野における取組

本学は、2023 年 5 月、「第4期中期目標期間における広島大学のあるべき姿」の実現に向け、学際的に取り組む 5 つの重点目標として「President 5 Initiatives for Peace Sciences – 新しい平和科学(安全・安心を実現する「創る平和」) –」を策定した。そのうちの一つに「4.海洋・海事のガバナンスと持続可能性のためのアジア拠点形成」を掲げている。その達成に向け、国内では、同年7月に本学と呉市・海上保安大学校・公益財団法人笹川平和財団の4者における連携協定の締結、2024 年3月に本学と海上保安大学校及び商船系高等専門学校5校の我が国初となる海洋・海事系教育研究機関7者による包括協定を締結し、教育・研究活動の相互交流や同分野における高専教育の機能強化への貢献も目指している。また、世界の海洋・海事分野の科学をリードする有力大学と協定を締結し、共同学位プログラムの設置も見据えた国際的な戦略的パートナーシップの強化にも取り組んできた。

(大学名： 広島大学) (タイプ：A)



本学と呉市・海上保安大学校・公益財団法人笹川平和財団の4者連携協定締結



本学と海上保安大学校及び商船系高等専門学校5校の7者包括協定締結

○国際共同学位プログラムの構築

本学は、国際的に質の高い教育を本学の学生に提供し、海外大学との一層の連携を強化するため、国際共同学位プログラムの実施に取り組んできた。現在 30 のダブル・ディグリープログラム(DD)、2つの JD を有している。そのうち、英語による十分な数の授業の提供と修士論文の共同指導が必要となるため難易度が高い修士課程における JDとして、大学院人間社会科学研究科広島大学・グラーツ大学国際連携サステナビリティ学専攻、大学院先進理工系科学研究科広島大学・ライプツィヒ大学国際連携サステナビリティ学専攻を 2020 年度に開始した。それぞれ、本学とグラーツ大学又はライプツィヒ大学で1年ずつ学ぶ2年の修士課程プログラムで、SDGs 達成に向けた地域と世界の喫緊の課題について、各大学の特色を生かしながら共通の教育課程を構築し、複数大学の教員が協働して教育・研究指導を行っている。これまで 20 名が入学、4名が修了し、修了者は国際機関等に就職している。

○全学的な責任・協力体制の構築

本学は、責任者として理事・副学長(グローバル化担当)を中心に、国際交流プログラムの関係部局を横断する実施部会を設置し、全学的視点から国際交流プログラム運営を行っている。本事業においてはこれに加えて、教育室、AIDI センター、情報メディア教育研究センターのほか、持続可能な未来のビジョンを自治体と共有し大学発のイノベーション創出や地域活性化及び地域課題解決を目指す Town & Gown Office、瀬戸内海域における環境保全や資源管理、地域振興などを目的とした瀬戸内 CN 国際共同研究センターや、Society 5.0 の国際展開を目指す IDEC 国際連携機構とも緊密に協力・連携し、プログラムを計画・実施・評価する体制を構築する。

○外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本学では、学生向けの留学情報ポータルを提供し、留学プログラム担当教員や留学担当の教職員、就職支援担当教職員がオンライン面談やメールで個別相談に応じている。留学前から十分な情報提供を行い、留学中でも学生が最新の情報を得られるよう努めている。また、派遣する学生には派遣前ガイダンスで履修に関する説明を行い、留学中の履修計画や帰国後の単位認定の計画等への支援を行っている。留学中の安全管理にも配慮しており、海外渡航リスクに関する講義を受講させ、安全管理マニュアルを提供している。さらに、海外同窓生ネットワークの立ち上げや外国人学生の受入環境整備にも取り組んでおり、留学生支援員の配置や言語・生活サポートなど、支援体制の整備を行っている。そのほか、適切な在籍管理の体制や履修指導、産業界や地元自治体との連携など、様々な面で留学生の受入とサポートに力を入れている。

○英語による教育の実績

本学は、1年生向けの教養教育科目の段階から英語での学習を積極的に推進しており、2023 年度には全授業科目の 43.4%にあたる 5,681 科目を英語で開講した。大学院課程では、2016 年度までに全ての理系の研究科に英語のみで卒業が可能なコースを設置した。また、人間社会科学研究科(国際平和共生プログラム、国際経済開発プログラム及び国際教育開発プログラム)(2020 年4月改組)では、全開講科目の 90%以上の科目を英語で行っている。さらに、2023 年度に新設したスマートソサイエティ実践科学研究院では、経済発展に伴い複雑化したモビリティ、エネルギー、食糧、健康、環境、公共政策などの社会的課題解決のための高度な専門性を醸成するための学際的なカリキュラムを4研究科共同により英語で提供している。加えて、既存の修士 JD では、「Sustainable Development Science and Technology」「Global Development Policy」の2つの科目群(トラック、30UCTS)を英語で提供している。

○学生の英語能力向上に向けた取組

本学は、SGU の達成目標として在学生の英語力向上を掲げ、学生情報ポータルに 6 か月ごとの TOEIC スコアの個人別期待(目標)値を表示し、学生の英語学習のモチベーションを喚起するとともに、英語外部検定試験の単位認定制度の充実、英語力強化のための短期集中コースの開設、オンライン英会話講座の無料受講の提供、定期的な TOEIC の大規模受験の実施等、様々な施策を実施してきた。その結果、TOEIC®730 点以上を取得した学生数は、2013 年度時点では 661 名だったが、2023 年度は 2,621 名と 3.9 倍に増加した。SGU の事業期間終了後も、自己資金等を活用して構築した教育体制を継続していく予定である。

○相手大学の公的な認可等

本事業の海外連携大学は各国の評価団体からアクレディテーションを受けており、全て International Association of Universities (IAU) の World Higher Education Database (WHED) にも掲載されている大学である。

○厳格な成績管理・単位付与・学修目標の明確化

本学は、全学的に算出方法を統一した GPA 制度は 2006 年度から導入し、GPA 制度を履修登録の上限設定に活用している。また、GPA の基盤となる厳格で適正な成績評価を実施するため、2013 年度から偏った評価の禁止などの成績評価のガイドラインを適用している。成績評価の責任については、教養教育科目は全学教育本部、専門科目は各プログラム教員会にあると定め、厳正で適正な成績評価に努めている。さらに、シラバス内容の統一化(到達目標や学生の学修 内容、準備学修の内容、成績評価方法・基準の明示)、e ラーニングシステム、講義アーカイブ、ケースメソッド教育展開などの取組を通して、学生の学修時間の確保と実質化につなげている。全てのシラバスは日・英で公開し、教育内容の公開に努めている。連携大学には、本学の上記の取組を説明した上で、本事業で実施するプログラムにおいても厳格な成績管理や単位付与を行い、学修目標を明確にすることで合意している。

○学位授与に至るまでのプロセスの明確化

本学は、学位プログラム毎に3つのポリシー(アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー)を定め、ホームページ上で日・英で公開している。また、コースナンバリングを全ての授業に表示し、プログラムの体系化を明示している。連携大学には、本事業においても学生の受入方針、カリキュラム方針、修了方針を作成することで合意している。

○外国人教員等の配置による教育体制の充実

本学は全学の人事委員会において教員人事の一元管理・調整を行っている。戦略的かつ厳格な基準による国際公募を原則とし、一貫した採用制度の構築・運用を行っている。また、英語による授業や海外大学との共同教育も推進し、海外の協定大学等からの教員招聘や、英語で授業担当できることを必要条件とする教員採用を行っている。さらに、若手教員に、本学のサバティカル研修制度や日本学術振興会の国際交流事業等を活用し、外国での長期教育・研究経験を積むことを奨励している。

○FD による教育力の向上

本学は、全学主催と各部局主催の FD を組み合わせた教員の教育力の向上に取り組んでいる。本学で採用した新任教員には、原則として研修の受講を必須化とする「新任教員研修プログラム」により体系的な研修機会が提供され、新任以外の教員も積極的に参加している。

また、英語で授業を行うための全学 FD を 2011 年度から毎年実施しており、2016 年度からは「英語による授業の方法」を FD として内容を改善しながら、継続的に開催し、教員の教育力等の向上に常に努めている。

【計画内容】

○本事業の目的及び養成する人材像

本事業は、これまでに取り組んできた欧州の複数大学との学際的な修士ジョイント・ディグリープログラム(JD)に「AI 技術応用」と「海洋・海事分野」の専門科目を組み込み分野の拡張を行うことを目的とし、AI 及び海洋・海事分野の最先端研究・教育プログラムを行う欧州の大学を新たに招聘し、AI 技術を活用したデータ分析や予測技術を通じた持続可能な海洋・海事の実現に貢献する「日・欧州の海洋経済安全保障と持続可能性を支える AI 次世代人材」の育成に取り組む。

○質の保証を伴った大学間交流の枠組み形成及び拡大に向けた質の高い教育連携プログラムの実施

本事業では、「日・欧州の海洋経済安全保障と持続可能性を支える AI 次世代人材」を育成するため、欧州の

AI 及び海洋・海事分野の最先端研究・教育プログラムを行う欧州の大学と共同で、AI 技術を活用したデータ分析技術及び SDGs、特に海洋・海事分野の知識を有し、それらを適切に応用する力を醸成し、日・欧州の学生が共に学び合い成長できる、国際的に通用する質保証を伴った国際交流プログラムを提供する。

(1) 学生交流プログラムの内容

本プログラムは、双方向のオンラインセミナー、実渡航を伴う短期集中プログラム(サマーコース)、セメスター留学、インターンシップの4段階で構成される、ステップアップ型国際協働教育型プログラムを実施する。これにより、「日・欧州の海洋経済安全保障と持続可能性を支える AI 次世代人材」に必要な素養を体系的に身につけさせる。学生交流は、日・欧州参加大学の間で合意された以下の交流プログラムを実施する。

①AI 技術×海洋・海事オンラインセミナー

海洋・海事分野における AI の活用に関する双方向型のオンラインセミナーを実施し、同分野における基礎的な知識を習得させるとともに、実渡航への意欲や関心を高めさせる。また、意欲のある学部学生も参画させ、将来の留学に対する意欲の喚起につなげる。セミナーの実施前には JV-Campus 等オンラインを活用し、セミナーのテーマに関連した AI 技術及び海洋・海事分野に関する事前学習を全員に課すとともに、参加する日本人学生に対してオンライン英会話講座等による英語教育の受講を推奨し、セミナーの学修効果を高める。

②サマーコース

海洋・海事分野における AI の活用について日・欧州の修士学生が協働で学ぶハイブリッド型のサマーコースを開催する。異なるバックグラウンドを持つ参加学生が、海洋・海事に関わる機関・企業や製造現場の見学を通じて、海洋・海事分野における次世代モノづくり技術や、高解像・高精度な環境変動予測技術等、実際のプロジェクトに関するケーススタディに取り組み、学んだ知識を実際の状況に適用する能力、複雑で現実的な課題に対する問題解決能力を強化し、将来的に多様な職業領域で活躍するための基盤の形成を図る。また、多様な背景を有する国々の事例を活用しプログラムの国際通用性を高めるため、毎年開催場所を変更して実施することで、テーマや内容を深化させる。サマーコースの実施前にはオンラインを活用した事前交流や事前学習を計画し、実渡航の効果を最大限高めるとともに、実施後は学生に対してアンケート等を実施し、プログラムの改善に努めるとともに、留学報告会への参加、より中長期の留学機会の周知・推奨等、留学効果の継続に向けた適切なフォローアップを行う。

③HUSA (Hiroshima University Study Abroad Program) (セメスター交換留学)

本学と海外連携大学間でセメスター留学の派遣／受入を実施し、これまで学修してきた専門知識と経験を元に、国際環境の中で自己のテーマを広く高い視野から俯瞰し発展させると同時に、異文化理解力、課題発見・解決力を身につけさせる。また、講義の受講に加え、派遣先大学のセンター・研究室等でも学修を行う。派遣期間中は派遣先大学の指導教員による指導・助言に加え、オンラインを活用して派遣元大学の教員による指導・助言を継続する。異なる大学の教員からの指導と交流を通じて、学生は自身の研究テーマに関連するさまざまな専門知識を深め、研究を高度化し、新しい研究のアイデアやアプローチを引き出すことを目指す。

④グローバルインターンシップ

セメスター留学の期間中に、学生のニーズや希望を踏まえ大学内外のラボや国際応用システム分析研究所 (IIASA) 等の国際的な研究機関でのインターンシッププログラムを実施し、将来のキャリアの基盤となる企業等・大学・学生間の国際的なネットワークの構築や、より高度な専門知識と技術、研究力、実務能力等を身につける機会を提供する。また、学生は、国外でのインターンシップを通じて、実践的な言語運用能力の修得のほか、異なる文化圏でのビジネスマナーや労働環境について理解を深め、今後のキャリア形成や就職活動に役立てる。

(2) 教職員交流

①研究ワークショップ

本学と海外連携大学の研究者が共同で選んだテーマに基づき、当該分野での新たな研究アプローチと共同研究の機会を探ることを目的に、オンラインも活用しながらセミナーやディスカッションを交えたワークショップを企画・実施する。参加した研究者同士の相互理解を促進するとともに、国際的な共同研究や学術的パートナーシップを拡大させ、学術交流基盤の強化に繋げる。

②学位論文の共同指導

主に本プログラムの参加学生に対し、本学及び海外連携大学に所属する2名の教員から共同で学位論文指

(大学名： 広島大学) (タイプ：A)

導を行う。日・欧州の教員による研究指導は、学生に国際的で多様な研究機会の提供を可能にし、さらに、日・欧州の教員間の相互理解の促進及び教育研究体制の強化、将来の共同研究の基盤形成に貢献する。事業期間中の国際共同学位プログラムの構築を見据え、論文の国際共同指導体制を構築する。

③FD/SD の実施

毎年開催される、欧州の複数大学との学際的な修士ジョイント・ディグリープログラム(JD)の合同入試や本事業のプログラム委員会の開催に合わせ、日・欧州合同のFD/SDの計画・実施を行う。特にJD・DDの構築に係る、国際的な質保証の動向、運営上の課題等を共有し、意見交換や情報交換を行うことで、JD・DD、欧州各国の高等教育・質保証などに精通した教職員の養成を行い、日本人学生の海外における修学環境の向上に資する取組の提案・プログラムの改善を行うことができる体制の基盤づくりを行う。

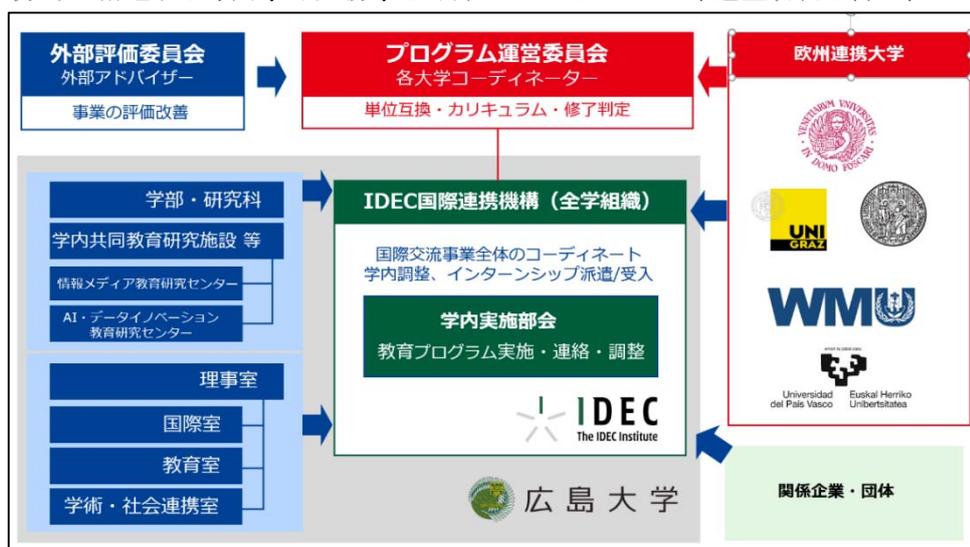
○全学的な責任・協力体制の構築

本学の特徴的な教育研究のための全学組織である IDEC 国際連携機構に、教職員の人員配置を伴う形で、国際交流事業を一元的に管理する新設の組織を設置している。本事業においても、IDEC 国際連携機構が中心となり、国際室、教育室、学術・社会連携室、各学部・研究科、センター等を横断的に繋げ、本事業を実施する学内体制を構築する。また、責任者として理事・副学長(グローバル化担当)を中心に、関係部局を横断する実施部会を設置し、全学的視点から国際交流プログラム運営を行う。

○自己点検・質保証・運営体制

本事業は、本学及び海外連携大学の学長のリーダーシップの下、本事業における意思決定組織として、連携大学によるプログラム運営委員会を設置する。

加えて、本学においては、学部・研究科及び学内の研究センター等による全学の実施部会を設置する。また、外部評価委員会の設置及び外部アドバイザーを置く。外部評価委員会は、他国との国際教育交流、グローバル化企業の専門家等を委員とし、事業の評価改善に取り組む。さらに、情報・データサイエンス分野に精通する専門家や実務家を外部アドバイザーとして、適宜助言を得て、プログラムの改善に努める。



(本事業に係る学内外の体制図)

○質の保証を伴った交流プログラムの形成と効果的实施

(1) 英語による提供科目の充実と単位の認定

大学院課程では、2016 年度までに全ての理系の研究科に英語のみで卒業が可能なコースを設置した。また、人間社会科学研究科(国際平和共生プログラム、国際経済開発プログラム及び国際教育開発プログラム)(2020 年 4 月改組)では、全開講科目の 90%以上が英語を用いて授業を行っており、また、2023 年度に新設したスマートソサイエティ実践科学研究院では、経済発展に伴い複雑化したモビリティ、エネルギー、食糧、健康、環境、公共政策などの社会的課題解決のための高度な専門性を醸成するための学際的なカリキュラムを4研究科共同により英語で提供しており、外国人留学生に対し十分な数の科目の提供が可能である。また、海外連携大学も英語で修了可能な修士プログラムを多く提供している。

本事業では、本学が海外との単位互換に利用している UCTS/ECTS を基本として、相互に単位認定を行う。

(大学名： 広島大学) (タイプ：A)

受入大学と派遣大学が事前に合意された学修計画に基づく履修と共通尺度を用いて学修量と成績を換算する。

(2) 企業や自治体等と連携したインターンシップの実施

グローバルインターンシップの全学実施体制として、国外及び留学生のインターンシップのワンストップ支援を行う専門の部門を IDEC 国際連携機構(教育研究のための全学組織)に設置した。専任の教員及び事務職員を配置し、派遣と受入の両方のインターンシッププログラムの計画と運営、企業との連携、学生とのマッチング、選考・面接プロセスの管理などを行っている。インターンシップ実施前から実施中、帰国後のフォローアップまで、キャリアカウンセリング等のきめ細やかな支援を実施し、就職に繋げるためのインターンシップを支援する。外国人留学生には、英語での情報提供やコミュニケーション支援を実施する。さらに、学生の多様なグローバルキャリアに対応するため、専門分野での人材育成を含むインターンシップの受入先を開拓し、企業との交渉や協力関係の構築、受け入れ先企業との連携強化を行う。なお、システム分析を通じて持続可能な開発目標の達成を支援するための政策ソリューションを特定することを目的とし、オーストリアに拠点を置く国際的な研究機関である国際応用システム分析研究所 (IIASA: International Institute for Applied Systems Analysis) においても修士学生のインターンシップ実施を行うことについて、同機関から合意を得ている

(3) 修士時点での留学を増加させるための取組

① 学部学生の本プログラムへの参画

本事業で実施する各プログラムは修士学生を対象として実施するが、オンラインセミナーには、本学の意欲的な学部学生も参画させ、実際に修士レベルの海外の教育環境を体験させることで、英語学習や将来の留学に対するモチベーションを喚起させる。また、海外留学に参加した日本人学生の体験報告会や留学説明会を実施し、実際の留学生活や学修環境について生の声を聴き、学生が留学に対するリアルなイメージを持つ機会を複数回提供する。

② 学部学生の英語力を向上させる取組

本学では学内において学生が継続的に外国語に触れることができる共有スペースをグローバルコモンズとして設置し、外国人講師のオフィスアワーや外国人留学生との交流機会の創出を行っている。本プログラムの参加学生にはグローバルコモンズの利用を推奨し、スペースを活用した修士学生との交流機会を創出する。また、留学前後にオンライン英会話講座や本学の外国語教育研究センターが提供するプログラムを受講させ、留学効果の向上と継続を図る。

③ 海外大学院の入学に向けたギャップターム解消の取組

入学時期が秋季であることが多い欧州圏の大学への留学生を増加させるため、3月の卒業後、秋季の大学院入学までの約半年間のギャップタームの解消に向けて学部の早期卒業も含めた大学院へのスムーズな接続に向けた取組の検討を行う。

(4) 留学生の受入等における安全保障貿易管理体制の整備及び FD の実施

本学では、2016 年度に「広島大学安全保障輸出管理規則」を制定し、最高責任者、輸出管理統括責任者(最終審査)、輸出管理責任者(二次審査)、部局輸出管理責任者(一次審査)の体制で安全保障輸出管理に全学で取り組んでいる。外国人留学生の受入に際しては、志願者からの接触があった時点で懸念情報の確認を行い、出願後は所定の事前確認シートによるスクリーニングを実施するチェック体制を整備している。また、経済産業省安全保障貿易管理アドバイザー派遣制度を利用し、実務経験豊富な専門家の支援・助言を受けるほか、学内限定ポータルサイトに安全保障輸出管理の手続・制度を網羅した特設ページを設け、学内制度の説明、及び関係機関の最新情報を共有している。

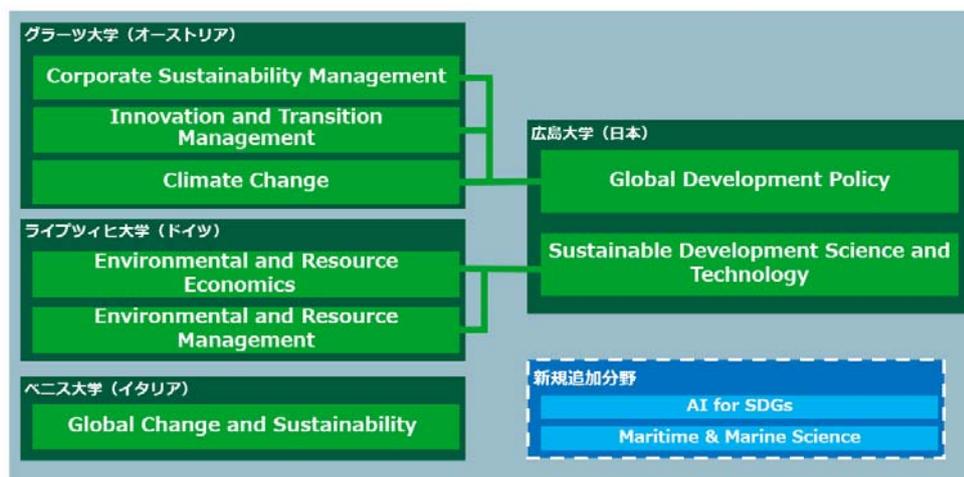
さらに、教職員、学生の安全保障輸出管理についての知識、意識の向上を図るため、各研究科の教授会等でセミナー等を開催しており、2024 年度からオンラインを活用し全学対象のセミナーを実施する予定。

(5) 国際共同学位プログラムの構築

本事業では、既存の SDGs の学際的な修士 JD のフレームワークの中に、「SDGs における AI 技術応用」と「海洋・海事」を専門科目として組み込むことで、事業 5 年目までにプログラムの分野の拡張を図る。また、事業の共同実施を通じ、JD/ダブル・ディグリー (DD) など国際連携学位プログラムの新設を視野に入れたカリキュラムの共有化・共通化を図り、事業 5 年目までに JD/DD による新規の国際共同学位プログラムを構築する。国際共同学位プログラムの拡張・新設により、本学及び我が国の学部学生に対し、修士段階における海外での理系学位取得の新たな選択肢を提供する。



(コンソーシアム型国際共同修士プログラム「Joint International Master in Sustainable Development」semesterごとのカリキュラム)



(既存の JD への新規分野の組み込みのイメージ図)

(6) AP(アドバンスプレイズメント)科目の導入

本学は 2020 年より、高大接続事業の一環で、高等学校等に在学する生徒に対して、本学で開講する学部生向け授業科目をアドバンスプレイズメント科目として提供している。また、英語で開講される科目を中心に、大学院の授業科目を学部学生の時点で履修できる早期履修の制度を 2009 年から整備している。

○欧州の連携大学との教育連携

本事業は、日・欧州の参加大学が共同で教育連携体制と学生支援体制を構築し、円滑かつ効果的に学生の国際的な学修を進めるための指導・支援を行う。

(1) 内部質保証システムの構築

本学と海外の連携大学の本事業担当教員から構成する「プログラム運営委員会」が、定期的に交流学生の学修成果とカリキュラム、教育方法、授業科目の内容との整合性について点検する。学修成果については、SERU 学生調査、BEVI テスト等やコンピテンシーの修得状況等、カリキュラム・教育方法・授業科目についてはその内容と単位互換のための情報共有、必要に応じてピアレビューを実施し、PDCA サイクルを実行して事業の改善を図っていく。さらに、事業全体の推進に関する自己点検、それを基にしたプログラムの外部評価及び外部アドバイザーからの助言を受ける。

(2) 単位制度と単位の相互認定

本事業は、本学が海外との単位互換に利用する UCTS/ECTS を基本とし、相互に単位認定を行う。受入大学と派遣大学が事前に合意した学修計画に基づく履修と共通尺度を用いて学修量と成績を換算する。

(3) 学生の履修順序

本事業で提供するプログラムにおいて、4段階の学びのステップの履修順序について、授業科目と教育目標の関係を示したカリキュラムマップを作成し、参加大学間で共有、コンピテンシーの修得状況に応じた履修指導を行う。また、semester交換留学では、学生が適切なレベルの授業科目を体系的に選択できるようナンバリングをもとに学修指導を行う。

(大学名： 広島大学) (タイプ：A)

(4) 単位の付与・相互認定や成績管理のプロセス

本学は、2000 年度より全学的な交換留学事業の学業成績の単位認定に UMAP 単位互換制度 (UCTS) を導入し、世界中の協定大学との単位互換・成績管理を行っている。2015 年度からは、4ターム制を導入することで、世界の多様な教育システムにも対応することが可能となり、学生の留学や編入等を容易にしている。HUSA プログラム (1996 年度～)、欧州4大学との国際協働教育プログラムでの学生受入 (2010 年度～) やこれまで採択された 9 件の大学の世界展開力強化事業等、多くの留学プログラムを長期展開し、単位互換の実績を積んでいる。この度の交流事業では、UCTS に基づき、換算を行う予定である。なお、実際に単位互換は科目内容の互換性が非常に重要であるため、本学と海外の連携大学の本事業担当教員から成る「プログラム運営委員会」において検討・点検を実施し、各大学との実質的な単位互換の促進に努める。

(5) アカデミックカレンダーの相違への対応

本事業の実施においては、参加大学間でアカデミックカレンダーを共有する。オンラインや短期の交流は、各大学のアカデミックカレンダーを考慮した運営を行う。また、JV-Campus をはじめとする Learning Management System (LMS) や各種オンラインツールなどを活用し、学生自身や学生チームが自主的に活動できるような環境を提供する。長期の留学では、本学のクォーター制度の活用や日本語の集中講義の提供など、留学中のインターシップ時間の確保ができるような履修指導を行う。連携大学と合意した各プログラムの実施にあわせて、学生の募集選考日程等を決定する。

(6) 学生の学修成果の可視化と質保証

SERU 学生調査、BEVI テスト等による学修成果の測定に加え、また、4 段階の各プログラムの実施前後で参加者にアンケートを実施し、国際交流やグローバルキャリアについての意識の変化について調査を行い、プログラムや講義の実施手法の改善に努める。

(7) プログラムの3つのポリシーの設定と共有

本事業の実施のための共同プログラムについての3つのポリシー (学生の受入方針、カリキュラム方針、修了方針の共有) を設定するとともに、4つのステップそれぞれにも受入方針、カリキュラム方針、到達目標 (修了方針) 等を定め、各大学がそれらの方針に沿ってプログラムを運営する。連携大学とは、本事業の重要な事項や詳細について定めた協定を締結し、定期的に点検を行い、単位授与、成績評価、単位互換の手続きが国の定める法令等に適合していることを確認する。

○学生交流プログラムの形態

本事業の各教育ステップでは、オンラインと実渡航を効果的に組み合わせ、日・欧州の学生が真に学び合う学修 (アクティブラーニング等) を含むプログラム設計としている。学生同士は、互いの多様なバックグラウンドを越えて、議論・対話・協働することで、グローバルで活躍するために必要な素養を身につける。また、本事業参画大学以外の国内外の学生に対しても段階的に展開していくことで、より多様性の高い教育環境の提供を目指す。

○学修歴証明のデジタル化

本事業は、高等教育の資格の承認に関するアジア太平洋地域規約 (通称: 東京規約) において推奨する「部分的な修学の承認」や「非伝統的な資格取得の形態」などの多様な学びにあたる到達目標型のプログラムとして実施する。サマーコース、HUSA、インターンシップについても単位化し、GPA に基づく修了証をオープンバッジ形式のデジタルバッジで国内外の参加学生に対して発行する。

達成目標【①～②-2 合わせて4 ページ以内】
① 養成しようとするグローバル人材像について
(i) プログラム計画全体の達成目標（プログラム開始～2028 年度まで）
<p>○アウトプット</p> <p>本事業では、日・欧州の経済安全保障において重要分野である「AI」及び「海洋・海事」分野について、学際的かつ国際通用性のある視野、知識、研究力、経験を有し、それらを SDGs に貢献できる形で正しく応用することで、持続可能な社会の発展に貢献できる高度な専門家、技術者及び政策立案者を養成する。</p> <p>上記の人材に必要な能力として、以下の4つの能力を設定し、プログラム全体を通じて醸成する。</p> <p>(1) 世界の課題解決に貢献するための、AI 技術や海洋・海事分野の科学を基盤にした、<u>SDGs 達成に向けた研究・実践能力</u></p> <p>(2) 複雑な課題に対し、複数の学問分野から、課題に適した知識と科学的手法を選択するとともに、<u>分野横断型の研究手法を用いる力</u></p> <p>(3) 国や地域で異なる背景・思想・文化の違いを理解する中で、背景の異なる他者と協働できる<u>コミュニケーション能力</u></p> <p>(4) 自立的に研究を行うための、科学的思考や手法を理解する能力、及び根拠に基づいた<u>意思決定能力</u></p> <p>この目標となる人材の育成のため、欧州の AI 及び海洋・海事分野の最先端研究・教育プログラムを行う欧州の大学と共同で、日・欧州の学生が共に学び合い成長できる、国際的に通用する質保証を伴った国際交流プログラムを提供する。</p> <p>○アウトカム</p> <p>本プログラムを受講した学生は、AI 技術及び海洋・海事に関する視野や知識を有しつつ、学際的なアプローチで研究や実務を遂行できる能力や、バックグラウンドの異なる他者と協働できる高いコミュニケーション能力を有した<u>国際的な労働市場で高い就職力(Employability)を発揮できる人材</u>である。</p> <p>修了後は、教育・研究機関、グローバル企業、国際機関、政府機関・自治体、国際 NGO 等あらゆる職場において、新たな価値を生み出し、持続可能な社会の発展に貢献できる人材として活躍が期待される。</p>
(ii) 中間評価までの達成目標（プログラム開始～2025 年度まで）
<p>実渡航を伴う学生派遣及び受入は2025年度から実施するため、2025年度までは各プログラム実施の立ち上げ期であり、上記のような人材を育成するための準備期間として位置づけられる。</p> <p>まず、2024年度中にはトライアルとしてオンラインセミナーを実施するため、プログラム開始後すぐにセミナーの実施に関する詳細な協議を実施することで海外連携大学に了解を得ている。</p> <p>また、2024年度から2025年度当初にかけ、2024年度中にキックオフ会議及び合同プログラム委員会を開催し、本学及び海外連携大学間で、質保証、単位の互換や成績管理のプロセス等、プログラムの実施に係る各種協議を実施する。また、2025年4月に予定されている欧州の複数大学との学際的な修士ジョイント・ディグリープログラム(JD)のグローバル合同入試(対面開催)プログラム協議等においても、学生交流開始に向けた準備や教職員交流を含めた各大学間の連携についてより詳細に協議を行う。2025年度終了時には、2025年度中のプログラム実施の反省と改善点の把握に努めるとともに、外部評価委員会の実施、外部アドバイザーからの助言を受け、2026年度以降のプログラム実施に向けたブラッシュアップを行う。</p>

②-1 学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアする日本人学生数の推移について

(i) 本プログラム計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアする学生数に関する達成目標

単位：人（延べ人数）

外国語力基準		達成目標	
		中間評価まで (プログラム開始～2025年度まで)	事後評価まで (プログラム開始～2028年度まで)
【参考】本プログラム計画において派遣する日本人学生合計数		36	115
1	TOEIC730点以上（CEFR B1相当）	20	63
2			
3			

(ii) 外国語力基準を定めた考え方

本学がスーパーグローバル大学創成支援事業(SGU)の事業構想において、TOEIC730点(TOEFL-iBT80点レベル相当)を外国語力基準として設定し、2023年度までの達成目標として、学部学生は30%以上、修士学生は60%以上、全学生の38.2%以上がその基準を超えることとしている。このためSGUの事業期間後に実施する本事業においては、学部学生のうち35%以上、修士学生のうち65%以上、全体で40%以上が当該基準を満たすことを目標とする。この基準を満たすことができるよう、学修機会の提供、モチベーション維持、外国人留学生との交流機会の創出等を行っていく。

(iii) プログラム計画全体の目標達成に向けたプロセス（プログラム開始～2028年度まで）

本学は、英語能力の測定のため、学部1年次の5月のTOEIC受験を必須とし、3・4年次にもTOEICの受験を課し、学生の語学能力の成長を確認している。また、大学院学生を含む、全学生の希望者に対して、5月又は11月のTOEIC受験機会を提供している。これらのTOEIC受験経費については、大学が負担することで、学生の経済的状況から受験を躊躇うことがないようにしている。

本学では学内において学生が継続的に外国語に触れることができる共有スペースをグローバルコモンズとして設置し、外国人講師のオフィスアワーや外国人留学生との交流機会の創出を行っている。本プログラムの参加学生にはグローバルコモンズの利用を推奨し、スペースを活用した修士学生との交流機会を創出する。また、留学前後にオンライン英会話講座や本学の外国語教育研究センターが提供するプログラムを受講させ、留学効果の向上と継続を図る。プログラムに参加した学生には、帰国後のTOEICの受験の推奨を行い、目標スコアを達成しない学生については、卒業までにスコアを達成するように、適宜フォローアップを行う。

(iv) 中間評価までの目標達成に向けたプロセス（プログラム開始～2025年度まで）

○学生の選抜

実渡航を伴うプログラムの学生募集要項には、語学能力が選考の評価の対象となることを明記し、プログラムの修了後から卒業時まで達成すべき語学能力としてTOEIC730点であることを示す。語学力については、必要に応じて英語での面接を実施し、学生の語学力と語学学修に対する意欲を審査する。教育プログラムの参加が学生のキャリア形成上必要であると考えられるが、語学力が不足している学生については、本学の外国語教育研究センターが提供する英語研修やオンライン教材を活用した学修を進めるよう指導する。

○英語資格試験スコアのモニタリングと学生指導

(大学名： 広島大学) (タイプ：A)

本プログラムの参加学生は参加申込時に、それぞれのプログラムの修了後の TOEIC 受験を必須として、学生 TOEIC スコアの伸長をモニタリングするとともに、外国語学修について指導とカウンセリングを行う。

②-2 学生に習得させる具体的能力のうち、「②-1」以外について

(i) プログラム計画全体の達成目標（プログラム開始～2028 年度まで）

○本事業で醸成する能力

本事業では、日・欧州の経済安全保障において重要分野である「AI」及び「海洋・海事」分野について、学際的かつ国際通用性のある視野、知識、研究力、経験を有し、それらを SDGs に貢献できる形で正しく応用することで、持続可能な社会の発展に貢献できる高度な専門家、技術者及び政策立案者を養成する。

上記の人材に必要な能力として、以下の 4 つの能力を設定し、プログラム全体を通じて醸成する。

- (1) 世界の課題解決に貢献するための、AI 技術や海洋・海事分野の科学を基盤にした、SDGs 達成に向けた研究・実践能力
- (2) 複雑な課題に対し、複数の学問分野から、課題に適した知識と科学的手法を選択するとともに、分野横断型の研究手法を用いる力
- (3) 国や地域で異なる背景・思想・文化の違いを理解する中で、背景の異なる他者と協働できるコミュニケーション能力
- (4) 自立的に研究を行うための、科学的思考や手法を理解する能力、及び根拠に基づいた意思決定能力

○プログラム計画全体の達成目標

- (1) 参加大学の連携のもと、上記 4 つの能力を醸成するための AI 及び海洋・海事に関する4段階の教育プログラムが設置され、学生がステップを追って学修を進めることでグローバル人材に必要な能力を身につけることができている。
- (2) 4 つの能力を備えたプログラム修了生を持続的に輩出できる教育プログラムの PDCA サイクルが確立している。
- (3) 各プログラムの自己点検、SERU 学生調査、BEVI 等による学生の能力の伸長、学生からのフィードバックアンケート、外部評価をもとにプログラムの改善を図っている。
- (4) 事業の共同実施を通じ、JD/ダブル・ディグリー (DD) など国際連携学位プログラムの新設を視野に入れたカリキュラムの共有化・共通化を図っている。

(ii) 中間評価までの達成目標（プログラム開始～2025 年度まで）

本事業では上記の能力の養成のために、2025 年度までに以下について実施する。

- (1) 2024年度内に、参加大学の担当教員から成る合同プログラム委員会を設置する。
- (2) 5つのコンピテンシーの計測に必要なルーブリックについて連携大学と合意し、各プログラムにおける到達目標を決定する。
- (3) 到達目標に応じて各プログラムの具体的な、内容、教授方法、評価方法について連携大学間で合意したプログラムが実施する。
- (4) 各プログラムの自己点検、SERU 学生調査、BEVI 等による学生の能力の成長、学生からのフィードバックアンケート、外部評価をもとに授業の改善を図る。

③ 本プログラム計画において海外に留学する日本人学生数の推移【1 ページ以内】						
現状（2024年5月1日現在）※1	14,027					人
(i) 日本人学生数の達成目標						
単位：人（延べ人数）						
プログラム計画全体の達成目標（プログラム開始～2028年度まで）					115	
中間評価までの達成目標（プログラム開始～2025年度まで）					36	
(上記の内訳)						
(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（プログラム計画全体、中間評価までの双方について）						
単位：人						
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	合計
実際に渡航する学生	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	13	13	13	13	13	65
実渡航とオンライン受講を行う学生	0	10	15	10	15	50
合計人数	13	23	28	23	28	115
(a) 実渡航による交流						
事業全体としてハイブリッド型の体系性と階層性を備えたブレンディットプログラムとして実施するため、実渡航のみの学生は計画していない。						
(b) オンラインによる交流						
○AI×海洋・海事分野オンラインセミナー 本プログラムの導入プログラムとして、修士学生を対象としたオンラインセミナーを実施する。同分野における基礎的な知識を習得させるとともに、実渡航への意欲や関心を高めさせる。また、意欲のある学部学生も参画させ、将来の留学に対するモチベーションを喚起させる。 派遣人数はオンラインでの指導と教育の質保証の観点から設定し、参加大学から合意を得ている。						
(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流						
派遣する日本人学生数は、派遣先大学における教育の質の確保と授業クラスのキャパシティ、提供できる安全な宿舎、学生の健康と安全確保等を考慮して設定した。						
○サマーコース 本学の修士学生を派遣し、短期集中プログラムとして、海洋・海事分野におけるAIの活用について日・欧州の修士学生が協働で学ぶハイブリッド型のサマーコースを日本と欧州で隔年開催する。						
○セメスター留学 海外連携大学との間で修士学生を1セメスター派遣する。これまで学修してきた専門知識と経験を元に、国際環境の中で自己のテーマを広く高い視野から俯瞰し発展させると同時に、異文化理解力、課題発見・解決力を身につけさせる。派遣先大学にてUMAP単位互換制度により8単位相当を履修する。						
○グローバルインターンシップ セメスター留学の期間中に、学生のニーズや希望を踏まえ大学内外のラボ等でのインターンシッププログラムを実施する。参加学生は、様々なバックグラウンドを持つ研究者から修士論文作成に向けた指導を受けるとともに、国際的な研究コミュニティに参画し、活動を通じてより高度な専門知識と技術、研究力、実務能力等を身につけさせる。海外連携大学に派遣する修士学生が参加する。						

※現状は、プログラムの取組単位（全学、学部等）における2024年5月1日現在の人数。

（大学名： 広島大学 ）（タイプ：A ）

④ 本プログラム計画において受け入れる外国人学生数の推移【1 ページ以内】							
現状（2024年5月1日現在）※1						1,831	人
(i) 外国人学生数の達成目標							
単位：人（延べ人数）							
プログラム計画全体の達成目標（プログラム開始～2028年度まで）					110		
中間評価までの達成目標（プログラム開始～2025年度まで）					40		
(上記の内訳)							
(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（プログラム計画全体、中間評価までの双方について）							
単位：人							
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	合計	
実際に渡航する学生	0	0	0	0	0	0	
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	10	10	10	10	10	50	
実渡航とオンライン受講を行う学生	0	20	10	20	10	60	
合計人数	10	30	20	30	20	110	
(a) 実渡航による交流							
事業全体としてハイブリッド型の体系性と階層性を備えたブレンディットプログラムとして実施するため、実渡航のみの学生は計画していない。							
(b) オンラインによる交流							
○AI×海洋・海事分野オンラインセミナー 本プログラムの導入プログラムとして、オンラインセミナーを実施する。同分野における基礎的な知識を習得させるとともに、実渡航への意欲や関心を高めさせる。受入人数については、オンラインでの指導と教育の質保証の観点から設定し、各大学から合意を得ている。							
(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流							
受け入れる外国人留学生数は、教育の質の確保と授業クラスのキャパシティ、提供できる安全な宿舎、学生の健康と安全確保等を考慮して設定した。							
○サマーコース 短期集中プログラムとして、海洋・海事分野における AI の活用について日・欧州の修士学生が協働で学ぶハイブリッド型のサマーコースを日本と欧州で隔年開催する。海外連携大学の修士学生が参加する予定。							
○セメスター留学 海外連携大学から修士学生を1セメスター受け入れる。これまで学修してきた専門知識と経験を元に、国際環境の中で自己のテーマを広く高い視野から俯瞰し発展させると同時に、異文化理解力、課題発見・解決力を身につけさせる。受入学生は本学にて UMAP 単位互換制度により8単位相当を履修する。							
○グローバルインターンシップ セメスター留学の期間中に、学生のニーズや希望を踏まえ大学内外のラボ等でのインターンシッププログラムを実施する。参加学生は、様々なバックグラウンドを持つ研究者から修士論文作成に向けた指導を受けるとともに、国際的な研究コミュニティに参画し、活動を通じてより高度な専門知識と技術、研究力、実務能力等を身につけさせる。本学で受け入れる修士学生が参加する。							

※現状は、プログラムの取組単位（全学、学部等）における2024年5月1日現在の人数。

（大学名： 広島大学 ）（タイプ：A ）

⑤ 交流学生数について（2024年度はプログラム開始以後の人数）

（単位：人）

(i) 本プログラムで計画している交流学生数

各年度の派遣及び受入合計人数 (交流期間、単位取得の有無等の 内訳は (iii) 表参照)	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	13	10	23	30	28	20	23	30	28	20	115	110
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	13	10	13	10	13	10	13	10	13	10	65	50
実渡航とオンライン受講を行う学生(以下「ハイブリッド」)	0	0	10	20	15	10	10	20	15	10	50	60

(ii) 国内大学及び交流プログラムごとの交流学生数

①	単位取得を伴う交流期間30日未満の交流
②	単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流
③	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流
④	上記以外の交流期間30日未満の交流
⑤	上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流
⑥	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流

学生別	A	学部生
	B	大学院生

実	実際に渡航する学生
オ	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生
ハ	実渡航とオンライン受講を行う学生(ハイブリッド)

1. 【代表申請大学】

大学名		広島大学												合計								
交流プログラム名 (相手大学名)	交流方向	交流形態	学生別	2024年度			2025年度			2026年度			2027年度			2028年度						
				実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実		オ	ハ	実	オ	ハ			
オンラインセミナー(ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学)	派遣	④	B		10			10			10				10			10			50	
オンラインセミナー(ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学)	派遣	④	A		3			3			3				3			3			15	
オンラインセミナー(ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学)	受入	④	B		10			10			10				10			10			50	
サマーコース(ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学)	派遣	②	B										5								5	10
サマーコース(ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学)	受入	②	B					10							10						20	
HUSA(ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学)	派遣	③	B						5				5					5			5	20
HUSA(ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学)	受入	③	B						5				5					5			5	20
インターンシップ(ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学)	派遣	①	B						5				5					5			5	20
インターンシップ(ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学)	受入	①	B						5				5					5			5	20

2. 【国内連携大学等】

大学名														合計								
交流プログラム名 (相手大学名)	交流方向	交流形態	学生別	2024年度			2025年度			2026年度			2027年度			2028年度						
				実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実		オ	ハ	実	オ	ハ			
	派遣																					0
	受入																					0
	派遣																					0
	受入																					0

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

(iii) 本プログラムで計画している交流学生数（派遣・受入別 各内訳の集計）

【日本人学生の派遣】		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	合計
年度別合計人数	学生別	13	23	28	23	28	115
【交流形態別 内訳】							
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流		0	5	5	5	5	20
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド	B	5	5	5	5	20
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	0	5	0	5	10
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
	ハイブリッド	B		5		5	10
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0	5	5	5	5	20
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド	B	5	5	5	5	20
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流		13	13	13	13	13	65
	実渡航						0
	オンライン	A	3	3	3	3	15
	オンライン	B	10	10	10	10	50
	ハイブリッド						0
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

【外国人学生の受入】		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	合計
年度別合計人数	学生別	10	30	20	30	20	110
【交流形態別 内訳】							
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流		0	5	5	5	5	20
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド	B	5	5	5	5	20
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	10	0	10	0	20
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド	B	10		10		20
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0	5	5	5	5	20
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド	B	5	5	5	5	20
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流		10	10	10	10	10	50
	実渡航						0
	オンライン	B	10	10	10	10	50
	ハイブリッド						0
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

(iv) 派遣・受入別 交流プログラム学生数の詳細

①日本人学生の派遣【計画】

年度	交流期間		派遣元大学	派遣先大学	派遣相手国	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	学生別	交流学生数	(内訳)		
										実渡航	オンライン	ハイブリッド
2024	2月	2月	広島大学	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ	オンラインセミナー	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	3		3	
2024	2月	2月	広島大学	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ	オンラインセミナー	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	B	10		10	
2025	7月	7月	広島大学	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ	オンラインセミナー	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	3		3	
2025	7月	7月	広島大学	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ	オンラインセミナー	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	B	10		10	
2025	10月	3月	広島大学	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	5			5
2025	1月	1月	広島大学	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ	インターンシップ	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	B	5			5
2026	7月	7月	広島大学	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ	オンラインセミナー	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	3		3	
2026	7月	7月	広島大学	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ	オンラインセミナー	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	B	10		10	
2026	8月	8月	広島大学	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ	サマーコース	②：単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	B	5			5
2026	10月	3月	広島大学	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	5			5
2026	1月	1月	広島大学	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ	インターンシップ	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	B	5			5
2027	7月	7月	広島大学	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ	オンラインセミナー	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	3		3	
2027	7月	7月	広島大学	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ	オンラインセミナー	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	B	10		10	
2027	10月	3月	広島大学	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	5			5
2027	1月	1月	広島大学	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ	インターンシップ	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	B	5			5
2028	7月	7月	広島大学	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ	オンラインセミナー	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	3		3	
2028	7月	7月	広島大学	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ	オンラインセミナー	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	B	10		10	
2028	8月	8月	広島大学	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ	サマーコース	②：単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	B	5			5
2028	10月	3月	広島大学	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	5			5
2028	1月	1月	広島大学	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ	インターンシップ	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	B	5			5

(大学名： 広島大学)

(タイプ： A)

②外国人学生の受入【計画】

年度	交流期間		派遣元大学	派遣相手国	派遣先大学	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	学生別	交流学生数	(内訳)		
										実渡航	オンライン	ハイブリッド
2024	2月	~ 2月	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	日本	広島大学	オンラインセミナー	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	B	10		10	
2025	7月	~ 7月	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	日本	広島大学	オンラインセミナー	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	B	10		10	
2025	7月	~ 7月	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	日本	広島大学	サマーコース	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	B	10			10
2025	10月	~ 3月	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	日本	広島大学	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	5			5
2025	1月	~ 1月	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	日本	広島大学	インターンシップ	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	B	5			5
2026	7月	~ 7月	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	日本	広島大学	オンラインセミナー	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	B	10		10	
2026	10月	~ 3月	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	日本	広島大学	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	5			5
2026	1月	~ 1月	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	日本	広島大学	インターンシップ	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	B	5			5
2027	7月	~ 7月	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	日本	広島大学	オンラインセミナー	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	B	10		10	
2027	7月	~ 7月	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	日本	広島大学	サマーコース	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	B	10			10
2027	10月	~ 3月	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	日本	広島大学	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	5			5
2027	1月	~ 1月	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	日本	広島大学	インターンシップ	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	B	5			5
2028	7月	~ 7月	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	日本	広島大学	オンラインセミナー	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	B	10		10	
2028	10月	~ 3月	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	日本	広島大学	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	5			5
2028	1月	~ 1月	ベニス大学、グラーツ大学、世界海事大学、バスク大学、ライプツィヒ大学	日本	広島大学	インターンシップ	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	B	5			5

(大学名： 広島大学)

(タイプ： A)

⑥ 海外相手大学との単位互換について

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

単位互換を実施する 海外相手大学数	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0	5	5	5	5	5	5	5	5	20	20

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

学生別	A	学部生
	B	大学院生

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 広島大学】

相手大学名		学生別	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	合計
ベニス大学	認定者数	B	0	1	1	1	1	4
	認定単位数	B	0	8	8	8	8	32
グラーツ大学	認定者数	B	0	1	1	1	1	4
	認定単位数	B	0	8	8	8	8	32
世界海事大学	認定者数	B	0	1	1	1	1	4
	認定単位数	B	0	8	8	8	8	32
バスク大学	認定者数	B	0	1	1	1	1	4
	認定単位数	B	0	8	8	8	8	32
ライプツィヒ大学	認定者数	B	0	1	1	1	1	4
	認定単位数	B	0	8	8	8	8	32
年度別認定者数合計			0	5	5	5	5	20
年度別認定単位数合計			0	40	40	40	40	160

2. 国内連携大学 【大学名： 】

相手大学名		学生別	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	合計
	認定者数							0
	認定単位数							0
	認定者数							0
	認定単位数							0
	認定者数							0
	認定単位数							0
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0	0

(大学名： 広島大学)

(タイプ： A)

⑦ 実渡航前のオンライン教育を実施する場合、そのオンライン教育を受けた学生数について

1. 代表申請大学 【大学名： 広島大学

交流プログラム名 (相手大学名)		分野	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	合計
サマーコース (ベニス大学、グ ラーツ大学、世界海事大学、バ スク大学、ライプツィヒ大学)	実渡航した学生		0	5	5	5	5	20
	上記の内、実渡航 前にオンライン教 育を受けた学生		0	5	5	5	5	20
HUSAプログラム (ベニス大学、 グラーツ大学、世界海事大学、 バスク大学、ライプツィヒ大 学)	実渡航した学生		0	5	5	5	5	20
	上記の内、実渡航 前にオンライン教 育を受けた学生		0	5	5	5	5	20
	実渡航した学生							0
	上記の内、実渡航 前にオンライン教 育を受けた学生							0
実渡航した学生数合計			0	10	10	10	10	40
上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生合計			0	10	10	10	10	40

2. 国内連携大学 【大学名：

交流プログラム名 (相手大学名)		分野	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	合計
	実渡航した学生							0
	上記の内、実渡航 前にオンライン教 育を受けた学生							0
	実渡航した学生							0
	上記の内、実渡航 前にオンライン教 育を受けた学生							0
	実渡航した学生							0
	上記の内、実渡航 前にオンライン教 育を受けた学生							0
実渡航した学生数合計			0	0	0	0	0	0
上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生合計			0	0	0	0	0	0

(大学名： 広島大学)

(タイプ： A)

⑧ EU諸国等との大学との間で実施する協働/共修学習活動数について

	協働/共修学習活動 名称	開催年月	開催回数	参加人数	参加国
1	オンラインセミナー	2025年2月	1	23	日本、イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ
2	オンラインセミナー	2025年7月	1	23	日本、イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ
3	サマーコース	2025年8月	1	15	日本、イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ
4	オンラインセミナー	2026年7月	1	23	日本、イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ
5	サマーコース	2026年8月	1	15	日本、イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ
6	オンラインセミナー	2027年7月	1	23	日本、イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ
7	サマーコース	2027年8月	1	15	日本、イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ
8	オンラインセミナー	2028年7月	1	23	日本、イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ
9	サマーコース	2028年8月	1	15	日本、イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ

(大学名： 広島大学

)

(タイプ：

A

)

⑨ 任意指標【2 ページ以内】																																									
【現状分析及び目標設定】																																									
<p>(現状分析)</p> <p>我が国の大学と外国の大学との間においてJDやDD等組織的・継続的な教育連携関係を構築し、それらを活用することで、我が国の大学の教育の幅を広げ、学生に留学等の異文化経験を含んだ質の高い教育を提供する機会を増やし、外国の大学との間で教育・研究の連携を高めることが可能である。本学では 2008 年から欧州大学とのコンソーシアム型国際共同修士プログラム(International Joint Master's Programme in Sustainable Development)に参加し、2020 年にはそれを発展させる形で2つの JD を設置し、海外大学との連携強化や国際的に質の高い教育の提供に取り組んできた。しかし、異なる国に所在する大学同士がどのようにプログラムを形成すべきかについては、国際的にも明確かつ詳細な合意は存在していない。そのため、連携する外国の大学の質保証及び当該国の JD/DD に関する制度等の状況把握のみならず、我が国の大学制度に関わる関係法令、各種審議会等での検討状況など、広範かつ専門的な知識が必要となる。また、JD/DD の構築にあたっては、大学間の戦略的なパートナーシップの構築はもちろん、学位プログラムを運用する上で担当教員及びその支援を行う事務職員間の信頼関係構築が非常に重要である。</p> <p>(設定指標)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2024 年度</th> <th>2025 年度</th> <th>2026 年度</th> <th>2027 年度</th> <th>2028 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(指標 1) 国際共同学位プログラム協定の新規締結数</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>(指標 2) 本事業に参加する大学との間の研究ワークショップの開催数</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>(指標 3) 本事業に参加する大学間で実施する FD/SD の実施回数</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>(指標 4) デジタルバッジの発行数(延べ数)</td> <td>80</td> <td>100</td> <td>120</td> <td>140</td> <td>160</td> </tr> <tr> <td>(指標 5)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	(指標 1) 国際共同学位プログラム協定の新規締結数	0	0	0	1	1	(指標 2) 本事業に参加する大学との間の研究ワークショップの開催数	0	1	1	2	2	(指標 3) 本事業に参加する大学間で実施する FD/SD の実施回数	0	1	1	2	2	(指標 4) デジタルバッジの発行数(延べ数)	80	100	120	140	160	(指標 5)					
	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度																																				
(指標 1) 国際共同学位プログラム協定の新規締結数	0	0	0	1	1																																				
(指標 2) 本事業に参加する大学との間の研究ワークショップの開催数	0	1	1	2	2																																				
(指標 3) 本事業に参加する大学間で実施する FD/SD の実施回数	0	1	1	2	2																																				
(指標 4) デジタルバッジの発行数(延べ数)	80	100	120	140	160																																				
(指標 5)																																									
【計画内容】																																									
<p>(指標1)国際共同学位プログラム協定の新規締結数</p> <p>本事業で得られたノウハウを学内に還元することで、海外留学を含めたより魅力的な国際共同学位プログラムの構築を推進する。事業終盤となる4年目、5年目に本事業の成果を生かし、新規の国際共同学位プログラムの構築を目指す。</p> <p>(指標2)本事業に参加する大学との間の研究ワークショップの開催数</p> <p>AI の海洋・海事分野における応用に関連した幅広い分野の研究者へ議論と研究発表の機会を提供し、研究者間の交流を促進することを目的としてワークショップを企画・実施する。事業開始年度である 2024 年度中に関係者間で実施にかかる協議を行い、2025 年度からワークショップを開催する。</p> <p>(指標3)本事業に参加する大学間で実施する FD/SD の実施回数</p> <p>各大学の教職員間で、JD・DD の構築に係る国際的な質保証の動向及び運営上の課題等の共有、意見交換や情報交換のための FD/SD の機会を創出する。事業開始年度である 2024 年度中に関係者間で実施にかかる協議を行い、2025 年度から FD/SD を開催する。</p> <p>○指標4:本学で発行するデジタルバッジの種類</p> <p>本事業以外のプログラムでも、本事業で実施するデジタルバッジの仕組みやノウハウを活用し、国際交流プログラム等で参加した学生にオープンバッジ形式のデジタルバッジを発行する。</p>																																									

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

<p>⑩ 加点事項に関する取組【2 ページ以内】</p> <p>【実績・準備状況】</p> <p>○将来の先端分野における国際共同研究や共同学位等の土台となるようなパートナーシップの構築 本事業で連携する、ベニス大学、グラーツ大学、ライプツィヒ大学とは欧州大学間のコンソーシアム型修士プログラムを通じ 2008 年から長期にわたる連携実績がある。また、世界海事大学、バスク大学は、海洋・海事分野で共同研究・教育の国際連携を推進するため、本学と協定を締結している。</p> <p>○海外大学との教職員交流 欧州大学とのコンソーシアム型修士プログラムでは、毎年4月頃参画大学の担当教職員が一堂に会し、全出願者の中から学生が主に在籍するホーム大学の希望順位に応じて学生選抜を実施し、最終的に学生のホーム大学となる大学が合格者を実施するグローバル合同入試を実施している。数日間にわたり対面で会議が行われるため、学生募集やプログラムの改善についての協議や JD プログラムの在籍生からのフィードバックセッション等、参加大学間における情報交換、交流の貴重な機会となっている。</p> <p>○JV-Campus の積極的な活用 本学は、2020 年より「大学の国際化促進フォーラム」の正会員として JV-Campus に参画し、個別機関 Box を設置し、講義動画や留学生向けのコンテンツ等を掲載している。令和4年度採択の大学の世界展開力強化事業(インド太平洋)では幹事校として、JV-Campus の国内外への普及に努めるとともに、令和5年採択の大学の世界展開力強化事業(米国)では、海外大学と共有して構築する専門科目を採択校以外も活用できる形で公開を予定している。さらに、令和5年度(補正)採択の大学の世界展開力強化事業(ASEAN)では、海洋海事領域教育の総合的な入門パッケージとして英語で教養教育科目及び専門教育科目の制作及び JV-Campus 上で単位取得が可能な形で公開する計画である。さらに、「JV-Campus 特設 Box を通じて配信される共同利用コンテンツ案の募集」に際し、本学の独自コンテンツ「知を鍛える-広大名講義 100 選-」をはじめ、新たに企画したコンテンツも合わせて計8件のコンテンツが採用され、すでに公開されている。</p> <p>○アウトカムに関する指標設定 本学では 2008 年から欧州大学とのコンソーシアム型国際共同修士プログラムに参画し、2020 年にはそれを発展させる形で2つの JD を設置し、海外大学との連携強化や国際的に質の高い教育の提供に取り組んできた。また、全国大学ジョイント・ディグリープログラム協議会(全国大学 JDP 協議会)に参加しており、本学における JD の成果やノウハウの共有、より効果の高い JD を全国展開するための活動に協力している。</p> <p>○学修歴や活動歴等のデジタル化 本学では、2024 年4月から財団法人オープンバッジ・ネットワークに加盟し、同機関のシステムを利用し、単位化されていない活動も含め主に国際交流プログラムの修了証として、国内外の参加学生に対してオープンバッジ形式のデジタルバッジの発行を行う。さらに、将来のキャリアとして国際公務員を目指す学生を育成・支援することを目的とした「国際公務員育成特別教育プログラム (YPPCIO プログラム)」などの既存の履修証明プログラム等についても、今後デジタルバッジの付与を検討する。</p> <p>○日欧州の架け橋となる人材育成 本学は、森戸国際高等教育学院が中心となり、本学の留学生、協定校の学生、外国人研修生等に、日本語能力及び日本文化に対する素養を高める講義やプログラムを、対面・オンラインの双方で実施している。また、グローバル化に対応した人材を育成するため、学生それぞれに合わせた語学の目標値の設定や、TOEIC の受験機会の提供、大学受験におけるみなし満点制度の導入等、学生の語学力向上に資する取組を積極的に行っている。また、段階的な留学プログラムや学内での留学生との交流機会を創出し、学生の国際交流機会を拡充している。</p> <p>【計画内容】</p> <p>○将来の先端分野における国際共同研究や共同学位等の土台となるようなパートナーシップの構築 本事業で連携する欧州の各大学は、いずれも本学の今後の国際戦略において非常に重要なパートナーである。本事業において、世界海事大学、バスク大学には海洋・海事分野での協力を中心に、既存の欧州のコンソーシアム型国際共同修士プログラムにモビリティ大学として参加する可能性を模索し、プログラムの拡充・拡大を図る。また、参加大学間で全学レベルでの学生及び研究者間の交流を実施することで、すでに各分野で構築しているコミュニケーション基盤、研究ネットワーク等を増強し、高度人材の育成や、国際共同研究に繋げていく。さらに、海外連携大学の参画する、ARQUS(グラーツ大学、ライプツィヒ大学)、EUTOPIA(ベニス大学)、ENLIGHT(バスク大学)等の欧州大学間アライアンスのネットワークを活用した欧州大学との交流拡大も検討していく。</p>
--

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

○海外連携大学との間での積極的な教職員交流の実施

本事業では、AIの海洋・海事分野における応用に関連した幅広い分野の研究者へ議論と研究発表の機会を提供し、研究者間の交流を促進することを目的としてワークショップを企画・実施する。

また、本学が参画する欧州大学を中心とするコンソーシアム型国際共同修士プログラムで毎年実施されるグローバル合同入試等の機会を活用し、各大学の教職員間で、JD・DDの構築に係る国際的な質保証の動向及び運営上の課題等の共有、意見交換や情報交換のためのFD/SDの機会を創出する。ワークショップ及びFD/SDの開催については、事業開始年度である2024年度中に関係者間で実施にかかる協議を行い、2025年度から開催する。

○JV-Campusの積極的な活用

本事業では実渡航前の事前教育の一部をオンラインも活用しながら実施するが、JV-CampusのLMS機能を活用し、参加大学の教職員・学生にJV-Campusのアカウントを取得させるとともに、JV-Campusの周知や活用の促進を図る。合同運営委員会等で海外連携大学に対してJV-Campusの周知広報を実施するとともに、各大学が所属する欧州大学のアライアンス内でのJV-Campusの紹介・周知・利用促進の依頼を行う。また、令和5年度(補正予算)採択世界展開力強化事業として、海洋・海事領域の総合的な入門内容として英語で作成するJV-Campusのパッケージ科目についても、本事業における事前教育やプログラムの資料の一部としての活用を検討するとともに、本事業の内容も同コンテンツに追加する。さらに、学生が主体となって作成する本事業に関する報告ビデオ、及び本学・我が国への留学を促すリクルーティングビデオ等をJV-Campus上で公開し、本事業の成果を国内外に広く公開する。

○アウトカムに関する指標

本事業は、「日・欧州の海洋経済安全保障と持続可能性を支えるAI次世代人材」育成のための国際協働プログラムの構築を通して、本学の国際化の加速、国際共同学位プログラム構築を見据えた海外大学との教職員交流を含めた連携強化、本学及び我が国の学生に対する海外での理系学位取得の新たな選択肢の提供等に取り組む。そして、多様な学びや学生のモビリティに対応できるプログラムの企画・運営、及び履修管理とそれを実現する国際的な大学間の連携の構築に貢献する。

○学修歴や活動歴等のデジタル化

本事業では、サマーコース、HUSA、インターンシップについても単位化し、GPAに基づく修了証をオープンバッジ形式のデジタルバッジで国内外の参加学生に対して発行する。既存の欧州のコンソーシアム型国際共同修士プログラムで修了者向けに提供されるディプロマ・サプリメントの記載内容や形式を踏襲し、本事業で発行するデジタルバッジには、プログラムの内容、学修内容、学修量、評価の方法等が記載され、学生自身がオンライン上で確認することができる。

○日・欧州の架け橋となる人材育成

本事業で実施するプログラムでは、専門的な知識の修得のほか、AI活用の基盤となる両国の社会や文化の差異、AIの社会への浸透状況やAIに対する態度等、両国で異なる部分を比較・議論する機会を設け、両国の文化等の理解を深めさせるとともに、交流によって派遣先国への理解を深めることを目指す。特に、HUSA(セメスター留学)では、長期間の現地での生活を通じ、滞在国の文化や習慣等への造詣を養うとともに、授業の受講や現地での交流を通じ、高いレベルでの言語の習得を目指す。なお、本学にて長期で受け入れる外国人留学生には、語学のレベルに応じ、日本語・日本文化プログラムを受講させ、日本語運用能力の向上をサポートするとともに、受入学生全員に、本学学生との交流や、広島の平和について学ぶ機会を提供し、日本と広島への理解を深める。

外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備【①～③合わせて3ページ以内】

① 日本人学生の派遣のための環境整備

【実績・準備状況】

○情報提供・相談体制:

本学は、学生の留学意欲の向上や留学準備に活用するため、学生向けの留学情報ポータルを設置し、情報提供に努めている。また、修学、学生生活、進路・就職の学生サポート情報を、学生情報システム「もみじ」や「キャリアス UC」で共有し、学生の留学中でも最新の情報を得られるようにしている。また、留学プログラム担当教員、留学担当の教職員、就職支援担当教職員が、オンラインやメールを通じた個別相談に応じている。

○履修に関するサポート:

派遣学生には、派遣前ガイダンスにて履修に関する詳細な説明を行い、現地での履修計画及び、帰国後の単位認定の計画を立てさせるとともに、指導教員や所属学部・研究科の職員による学生の個別相談を通じて、留学前から十分な情報提供を行っている。また、留学経験のある日本人学生を留学アドバイザーとして国際部にて雇用し、対面及びオンラインにて、学生の視点から多様な質問に対応している。

○学生の安全面への配慮:

留学中の安全管理に関する意識及び能力の向上ため、本学の海外派遣学生全員に、海外渡航リスクに関する講義の受講を義務付け、本学独自の安全管理マニュアルを配付している。また、派遣学生の保険加入を徹底している。保険については、東京海上日動火災保険株式会社と包括協定を締結し、一般価格よりも安価な保険を学生に提供している。海外渡航時には、外務省の「たびレジ」への登録を義務付けている。

○国内外でのインターンシップの実施:

本学は、2007年からグローバル・インターンシッププログラム(G.ecbo)を開始し、海外の外国企業や国際機関等に1～3ヶ月派遣するプログラムを提供している。また、近年、希望者が増加している留学生の国内インターンシップについても、グローバルキャリアデザインセンターが広島県と協力して、インターンシップ受入企業の開拓に取り組んでいる。また、広島大学 Global Research Internship Program (HU-GRIP)は、全米トップレベルの大学から学生を受け入れ、本学の教員・研究室の下で8週間程度の研究インターンシップを行うプログラムで、2016年度よりハーバード大学やシカゴ大学から、累計20名以上が広島大学でインターンシップを実施している。

○産業界、自治体との連携:

本学は、持続可能な未来の実現に向け、東広島市等と共同で、また企業の参画を得て、大学がもつ科学技術・イノベーションの社会実装により社会課題の解決に取り組む Town & Gown 構想の推進に取り組んでいる。また、本学の外国人留学生在が広島地域に定着できるように、地域の中小企業と学生のマッチングに関する調査・研究を実施。2020年度には「ひろしま IT 融合フォーラム(事務局:広島県商工労働局イノベーション推進チーム内)」より、「外国人留学生の地域企業への定着支援」に関するテーマで企画提案公募の助成金の交付を受けた。

【計画内容】

○情報提供・相談体制:

本学ウェブサイト及び学生情報システム「もみじ」や「キャリアス UC」を活用し、科目、履修体系・順序、単位の相互認定の手續、アカデミックカレンダー等について、学生の履修に支障がないよう十分な情報提供を行う。また、留学プログラム担当教員、留学担当の教職員、就職支援担当教職員が、オンラインやメールを通じた個別相談に応じている。

○履修に関するサポート:

本事業専用のインフォメーション・パッケージを作成し、学生募集時及び派遣前ガイダンスで、履修や学修面について丁寧な情報提供を行う。長期派遣学生には、留学中にも、オンライン等での指導教員による遠隔指導に加えて、本事業の担当教職員が定期的に連絡を取り、精神面や生活面の支援を行う。

○アカデミックカレンダーの相違への対応:

本学と海外参加大学の異なる学事暦の間で、スムーズな学生交流を行うため、各大学間でプログラム実施の日程を調整する。

○学生の安全面への配慮:

継続して海外渡航リスクに関する講義を提供し、学生に受講を義務付ける。外務省「海外安全ホームページ」や現地大使館からの安全管理に関する情報を収集するとともに、派遣国毎の注意事項をまとめる。

(大学名: 広島大学) (タイプ: A)

<p>○企業や自治体等と連携したインターンシップの実施 グローバルインターンシップの全学実施体制として、国外及び留学生のインターンシップのワンストップ支援を行う専門の部門を IDEC 国際連携機構(教育研究のための全学組織)に設置した。専任の教員及び事務職員を配置し、派遣と受入の両方のインターンシッププログラムの計画と運営、企業との連携、学生とのマッチング、選考・面接プロセスの管理などを行っている。インターンシップ実施前から実施中、帰国後のフォローアップまで、キャリアカウンセリング等のきめ細やかな支援を実施し、就職に繋げるためのインターンシップを支援する。外国人留学生には、英語での情報提供やコミュニケーション支援を実施する。さらに、学生の多様なグローバルキャリアに対応するため、専門分野での人材育成を含むインターンシップの受入先を開拓し、企業との交渉や協力関係の構築、受け入れ先企業との連携強化を行う。</p>
<p>② 外国人学生の受入のための環境整備</p>
<p>【実績・準備状況】</p>
<p>○適切な在籍管理の体制: 本学では留学生を含め、多様な形態の学生身分を有する全ての学生に対し、学生情報システム「もみじ」や「キャリアス UC」により、学籍・履修・在留資格等の管理を行っている。2020 年度からは、研修等で海外大学から受け入れた短期の留学生の学生身分として、「短期国際交流学生」を新たに設置した。</p> <p>○留学生受入のサポート体制: 留学生受入/支援の情報共有と協議を行うため、全学の「グローバル化会議」の下、「グローバル化推進部会」を設置して、留学生の生活支援に関する検討を行っている。履修指導・教育支援については、留学生も含め、学生全員にチューター教員、または、指導教員を配置している。また、2023 年度から、留学生がキャンパス情報や各種行政手続き等、留学生活に必要な情報を簡単に検索できる多言語コミュニケーション基盤を構築し、LINE と本学の公式アプリ「TGO アプリ」との連携による提供を開始した。</p> <p>○生活支援: 本学は、全ての留学生に、来日後の学内外での諸手続きを支援する学生サポーターを配置している(留学生サポーター制度)。また、修学、生活、就職に加えて、メンタルカウンセリングのワンストップサービスを提供している。学生情報サイト等も日英で情報を提供し、対象と内容に応じて、中国語での情報も提供している。また、学内の学生宿舎に留学生枠を設け、優先的に入居できるようにしている。留学生含む、本学の学生が利用できる相談窓口には、この他、保健管理センター、ハラスメント相談室、グローバルキャリアデザインセンターがある。</p> <p>○学生の履修に関する情報提供体制: 本学のウェブサイトは、シラバスや学事暦、履修方法等を日英で掲載している。また、学生向け履修ガイダンス等も日英で提供している。短期留学プログラムでは、シラバスの他、履修上の注意点、単位互換、学内の各種案内を「インフォメーション・パッケージ」として、作成・配布している。</p> <p>○産業界、地元自治体との連携: 本学のグローバルキャリアデザインセンターは、留学生に対して、企業等へのインターンシップ機会や、産官学の外部講師による講義や講演、会社視察(マツダ等)を提供している。また、留学生向けの国内就職説明会や個別相談を開催し、日本国内での就職を支援している。加えて本学は、2020 年に本学と東広島市の共同事業として、まちと大学が一体となったまちづくりのための Town & Gown Office 事業を開始し、外国人との共生モデルタウン、イノベーション人材育成に取り組んでいる。その更なる拡大に向け、2024 年1月 31 日、広島大学は、呉市、海上保安大学校、公益財団法人笹川平和財団とともに4者が発起人となり、呉市・広島大学 Town & Gown 構想の推進により、海洋・海事の国際的拠点づくりの取組を積極的に進めていくことを目的として「呉市・広島大学 Town & Gown 構想 海洋文化都市くれ推進協議会」を設立し、海洋・海事分野の課題解決や地域経済の活性化等について、議論し、取り組んでいく体制を整えている。</p>
<p>【計画内容】</p>
<p>○適切な在籍管理: 本事業で来日した留学生についても、本学で適切な学生身分を付与し、学生情報システムによって、学生の学籍・履修・在留資格の管理を行う。</p> <p>○受入留学生のサポート及び生活支援:</p>

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

本事業では、短期間でも高い学修効果をあげるために、修得が難しい日本語科目を中心に、本学学生を TA として配置する。また、受入留学生に学生サポーターを配置する。これらの TA と学生サポーターについては、本事業のプログラムに参加する(または参加した)本学学生を配置することで、学生同士の交流機会を増やし、教育交流の相乗効果を引き出す。また、受入学生に対しても、本学学生と同様に、身体的・精神的健康についてのサポートやキャリア相談の機会を提供する。受入学生の希望者には、留学生と日本人学生の混住宿舎である国際交流拠点の宿泊施設や学生寮を提供する。また、本学では 2020 年以降、国際室で新規来日時 of 行政手続き等のサポートを行っている。

○学生の履修に関する情報提供の体制：

本学がこれまで外国の大学との留学交流の実施により蓄積したノウハウを活用し、本事業用のインフォメーション・パッケージを作成・配布する。内容は年度毎に情報を更新する。

○アカデミックカレンダーの相違への対応：

本学と他の参加大学の異なる学事暦の間で、学生負担の軽減、スムーズな学生交流を行うため、「プログラム運営委員会」が、各大学間でプログラム実施の日程を調整する。

○産業界、地元自治体との連携：

本事業では、「呉市・広島大学 Town & Gown 構想 海洋文化都市くれ推進協議会」等とも連携し、本事業で実施する教育プログラム、人材育成、海洋・海事関連の国際協力を推進する。

○日本人学生との交流：

本学で定期的実施している国際交流イベント等への参加を通じて交流を促進する。

③ 関係大学間の連絡体制の整備

【実績・準備状況】

○連絡・情報共有体制の整備：

本事業の参加大学とは、本事業の実施の合意のもと、連絡・情報共有を行う体制を構築している。

○卒業・修了後のサポート体制：

卒業生・修了生が加盟する本学校友会は、世界各地に 16 の支部をもち、ネットワークを拡大している。本学は、本学の修了生も対象に、修了後も若手研究者同士あるいは民間企業等の異なるセクターとの交わりの場となる若手研究者ポートフォリオを提供し、継続的サポートを行っている。

○リスク管理への配慮：

留学生を含め、本学構成員全員に対し安否確認の訓練を行っている。

○派遣受入時の安全管理体制：

「危機管理マニュアル(教職員版)」及び「海外渡航リスク管理マニュアル(学生編)」を作成し、危機事象に備えている。2020 年2月の新型コロナウイルス感染症の拡大の初期には、全ての学生派遣を中止し、派遣学生への帰国指示と体調管理、派遣大学との情報共有により学生の安全確保に努めている。また、全学的に学生の渡航状況を把握すべく「海外渡航申請システム」を構築し、派遣学生には渡航前の申請を義務付けている。

【計画内容】

○連絡・情報共有体制の整備：

本事業の参加大学は、合同のプログラム運営委員会を設置し、本事業の企画と事業成果管理、事業評価の共有を行う。各大学は、担当コーディネーターを配置し、コーディネーターを中心に、プログラムの実施について、詳細な調整を行う。

○卒業・修了後のサポート体制：

本事業の同窓ネットワークを構築し、修了生のメーリングリストを作成して、継続して情報提供を行う。また、本事業の SNS を開設し、参加学生だけではなく、OB・OG や市民にも積極的な情報/成果発信を行う。継続して参加学生の連絡先を管理し、修了後の活動や活躍を把握できる体制を構築する。また、オンライン等も活用し、参加学生の同窓会ネットワークの立ち上げを予定している。

○安全管理体制、リスク管理への配慮：

本事業では、本学の学生交流の安全管理に関わるマニュアルを相手大学と共有し、本学の危機管理について理解を求める。また、相手大学との緊急連絡体制を構築する。加えて、相手大学からだけではなく、派遣国の大使館等からも感染症、治安等のリスクに関する情報収集を行い、多層の体制でリスク管理を行うことによって、学生の安全を確保する。

プログラムの実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及【①、②合わせて2ページ以内】
① プログラムの実施に伴う大学の国際化
【実績・準備状況】
<p>○大学の国際化に向けた戦略における本事業の位置付け: 本学は大学の国際化を積極的に進め、世界各地の大学と交流を行い、本学の中期目標・中期計画及び、国際戦略の着実な推進のための国際交流の基盤を着実に形成、発展させている。本事業は、本学における欧州大学とのネットワークの拡大と強化に貢献する事業として位置づけている。</p> <p>○国際交流プログラムの体系化: 本学は、質の保証を伴った交流プログラムとして、本プログラムは、双方向のオンラインセミナー、実渡航を伴う短期集中プログラム(サマーコース)、セメスター留学、インターンシップの4段階で構成される、ステップアップ型国際協働教育型プログラムを実施する。これにより、「日・欧州の海洋経済安全保障と持続可能性を支える AI 次世代人材」に必要な素養を体系的に身につけさせる。オンラインから短期、中期までの、体系的で一貫した交流プログラムとして、留学に関心のある学生の裾野を広げ、意欲ある学生を更に高度な学びへと繋げることを狙いとしている。更には本事業を通じて体系的な交流体制を構築することにより、中長期的には本分野における大学院の受験者数の増加、海外からの優秀な留学生の獲得、本学が目指すグローバル人材の育成を目指す。</p> <p>○組織的・継続的な教育連携を実施する体制の構築: 本学は、過去に採択された「大学の世界展開力強化事業」の実施を通じて、全学での組織的な取組や補助事業期間終了後の継続的な実施のための移行のノウハウを培ってきた。本事業は、教育連携と質の保証を伴った大学間交流に必要な項目を定めた学生交流附属書を本事業の参加大学と締結することで、組織的で実質的な学生交流を推進するものである。</p> <p>○事務体制の国際化と事務職員の能力向上: 本学は、事務体制の国際化に積極的に取り組んでいる。本学国際室では、英語で対外交渉が可能な職員を複数配置し、協定大学等との連絡や外国の大学との連絡調整を担当し、海外との組織的な交流を推進している。また、海外での業務経験が豊富な専門職員を雇用し、国際交流プログラムの運営、派遣/受入学生の支援業務にあたっている。また、複数言語に対応可能な留学生を学生スタッフとして雇用し、翻訳や窓口業務を行っている。各学部・研究科にも、英語での留学生対応を行う担当職員を配置している。また、職員の海外長期派遣制度や、国際化に対応するための研修プログラムを提供し、事務職員の能力向上にも務めている。本学では、①「職員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任職員等の割合」及び②「TOEIC800点以上の英語力を有する職員」の数値目標を定めている。①については2013年度の24人(全専任職員に占める割合3.9%)から2023年度は56人(9.6%)に増加、②についても、2013年度の21人(3.4%)から2023年度は119人(20.3%)に増加した。</p> <p>○事業をサポートする全学的体制の充実: 本学の留学プログラムではコーディネーターを配置し、事務局機能を強化したうえで、本学国際部とプログラムを実施する各学部・研究科が、業務に偏りが無いように役割分担を行っている。そのうえで、事業実施部会にて、連携を取って課題の共有や改善を行っている。本事業についても、この全学体制を踏襲し、学内の業務・役割分担を行ったうえで、実施することを計画している。</p> <p>○各種手続き等の電子化: 本学では、外国人の入学志願者の利便性向上や事務作業の効率化のため、英語版インターネット出願システムを2016年から開始し、優秀な外国人留学生を確保するため、オンライン上で受入希望～出願承認までのプロセスを一元管理する全学的留学生受入体制の整備を図ってきた。2022年から新システムとして、日本国外の大学を卒業し、外国人留学生として広島大学への入学を希望する方のための受付窓口として、HUIAAS(Hiroshima University International Admissions Assistant System)を稼働した。単なる入学手続きの電子化のみならず、本学教員と留学生のマッチング段階を含むシームレスな外国人留学生受け入れの仕組みを整備している。また、2021年から本学が発行する卒業証明書等について、オンライン申請とコンビニエンスストアで受け取りができるサービスを開始した。</p>
【計画内容】
<p>○事業組織体制: 本事業は、参加大学の担当で構成するプログラム運営委員会が、定期的に委員会を開催し、本事業の企画運営を行う。また、学内にプログラムの運営にあたる実施部会を設置し、本学の各学部・研究科から選出された教職員のほか、関係学内センターの担当教職員を委員として、定期的な部会を開き、全学の教職員の情報共有と意見集約が可能な体制とする。本学国際室には、本事業の窓口となる担当職員を配置し、プログラム運営の支援に当たる。</p> <p>○他大学の参考となる取組: 本事業が取り組む、短期、中期、長期を組み合わせた体系的な教育や、デジタルバッジの発行等による学修歴の電子化、さらには欧州大学間の持続可能な開発に関するコンソーシアム型国際共同修士プログラムを基</p>

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

盤としたジョイントディグリープログラムの実施等、他大学においても大学教育の国際化を図る上で参考になる取組を多く実施する予定である。

○組織的・継続的な教育連携を実施する体制の構築：

実施体制として、事業責任者、各プログラム担当教員、大学の国際関係部署と、相手大学とのカウンターパートを多層化し、組織的で継続的な実施体制を構築する。また、有識者からなる外部評価委員会を設け、外部評価を踏まえて、本事業の改善を行う。補助期間終了後も自己資金により継続的かつ安定的に実施し、全学を挙げて組織的に教育の国際化を推進する。

○事務体制の国際化と事務職員の能力向上：

①「職員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任職員等の割合」及び②「TOEIC800 点以上の英語力を有する職員」の数値目標を掲げ、長期に外国に派遣した職員等を国際関係部署に配置し、即戦力として本事業の実施体制の強化を図るとともに、事務職員全体の能力向上のため、各種研修を充実させる。具体的には、海外研修や学生の海外短期派遣の引率職員としての参加等の機会を継続的に増加させていくほか、外国語教育研究センターが実施する英語研修の充実並びに TOEIC(IP)受験機会の拡充により、事務職員の英語力の一層の向上を図る。

○事業をサポートする全学的体制の充実：

本学の特徴的な教育研究のための全学組織である IDEC 国際連携機構が中心となり、国際室、教育室、学術・社会連携室、各学部・研究科、センター等を横断的に繋げ、本事業を実施する学内体制を構築する。本事業の主担当としてコーディネーター1人を配置し、学部・研究科・関係部局の担当教職員、国際部の担当職員が協働して全学的体制で本事業の推進にあたる。本部国際部は、相手大学との事業運営の窓口となるほか、本事業の事業実施に係る手続き等を担当する。各学部・研究科は、本事業における留学プログラムにおける学生募集や授業提供、参加学生への支援等を行う。また、定期的実施会議を開催し、安定的にプログラムの実施運営や改善を図る体制を整える。

○成績証明書類等の電子化：

本学では 2020 年度から「オンラインで完結する留学生受入戦略検討WG」を設置し、優秀な留学生の獲得に向けた手段や方法の検討を進めてきた。高等教育機関における電子証明書に関する状況について、学内での情報提供及び検討を開始しており、国内でも実証実験が進行している成績証明書類等の電子化の取組については、これらの状況をふまえながら導入に向けた検討を行う。

② 国内外への情報提供の方法・体制、成果の普及

【実績・準備状況】

○成果の普及：

これまでに採択された大学の世界展開力強化事業では、専用のウェブサイトを立ち上げ、教育内容の紹介、プログラム参加学生の声を国内外に広く情報発信してきた。また、他の留学プログラムに参加した学生と共に合同留学体験報告会を年 2 回開催し、留学の取組や成果を広く普及させ、留学に関心を持つ学生の増加につなげている。プログラム終了時の成果発表会には、関係企業等から審査員として招く取組を実施し、教育プログラムの成果の産業界への共有を図っている。

○情報提供(外国語による提供含む)：

本学は、ウェブサイト、複数の SNS での情報発信に努めている。これまで取り組んできた国際交流プログラムについても、専用のウェブサイトを設置する等、事業内容と事業成果の発信に努めている。また、個別プログラムや団体の SNS については、一定の条件を満たしたものを公式の SNS アカウントとして、大学ウェブサイト上で公表している。公式サイトは全学体制として広報グループが一元的に管理しており、同グループと連携を密に取りながら、国内外への情報発信を速やかに実施できる体制が整っている。

○公表が望まれる項目の情報発信：

本学ウェブサイトでは、国立大学法人法や学校教育法施行規則の定めによる公表事項だけではなく、大学の教育、研究、そして社会貢献に関する情報を日本語の他、英語や中国語等でも公表しており、国内外に積極的な情報提供を行っている。また、「国際的な大学評価活動の展開状況や我が国の大学に関する情報の海外発信の観点から公表が望まれる項目の例」については、項目例の多くを既に公開しており、今後も国内外への情報発信を積極的に行っていく。

【計画内容】

○成果の普及と情報公開：

本事業専用のウェブサイト(日本語・英語)を立ち上げ、教育プログラム内容や仕組み、参加学生の学修や体験を掲載し、学内外にその取組の経験や成果を広く共有する。また、他の留学プログラムとともに報告会を実施し、その成果の普及を図る。加えて、学生による本事業に関する報告ビデオ及び本学・わが国への留学を促す動画等を JV-Campus 等オンラインを通じて広く公開し個人及び教育機関等への活用を促す。

○シンポジウム等の開催：

本事業の成果を含め、留学プログラム、人材育成等に関するシンポジウムを開催し、本事業への理解と事業成果について共有を図るとともに、広く議論を行うことで、学内関係者のみならず他大学や産業界等への普及を積極的に図る。

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	ベニス大学 (イタリア)
① 交流実績 (交流の背景)	
<p>○交流の背景</p> <p>同大学と本学は、欧州大学間の持続可能な開発に関するコンソーシアム型国際共同修士プログラム(以下、「SDプログラム」)を通じ、2010年から長期にわたる交流実績がある。本学は学位授与を行わないモビリティ大学としてSDプログラムに参画し、同大学の学生を本学にて特別聴講学生として受け入れを実施してきた。また、SDプログラムでは、参加大学が合同で学生選抜を行っており、学生選抜の課程や、同大学の学生受入に際し、両大学間で緊密な連携を図ってきた。</p> <p>○主な交流実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧・国際協力研究科(現・先進理工系科学研究科及び人間社会科学研究科)の講座にてこれまで4名の修士学生を1 Semester ずつ受入。現在(2024年5月1日時点)、修士学生1名が本学にて修学中。 	
② 交流に向けた準備状況	
<p>ベニス大学とは、本事業について、海外連携大学となることについて書面にて合意が得られている。</p> <p>また、2024年4月にオーストリアで開催されたJDコンソーシアムのグローバル合同入試にて、同大学担当者と対面協議の上、本事業の実施に向けて以下の点を確認している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインセミナーの実施及び学生の参加。 ・サマーコースに修士学生を派遣すること。 ・HUSA(Semester 留学)として、相互に修士学生が1 Semester/タームの交換留学を行うこと。また、これらの学生が交換留学中に、学内外のラボ等においてインターンシッププログラムに参加すること。 ・研究ワークショップ、FD/SDの開催等、積極的な教職員交流を実施すること。 ・本事業の実施において、JV-Campusを積極的に活用すること。 	

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	グラーツ大学 (オーストリア)
① 交流実績 (交流の背景)	
<p>○交流の背景</p> <p>同大学と本学は、2003年に大学間包括交流協定及び学生交流協定を締結し、セメスター留学を実施し、欧州大学間の持続可能な開発に関するコンソーシアム型国際共同修士プログラム(以下、「SDプログラム」)を通じ、2010年から長期にわたる連携実績がある。SDプログラムでは、参加大学が合同で学生選抜を行っており、学生選抜の課程や、同大学の学生受入に際し、両大学間で緊密な連携を図ってきた。</p> <p>本学は学位授与を行わないモビリティ大学としてSDプログラムに参画し、同大学の学生を本学にて特別聴講学生として受け入れを実施してきた。また、同大学はSDプログラムの他5つの国際共同修士プログラムを有し、SDプログラムにおいても、主導的な役割を担っている。</p> <p>さらに、同大学の環境・地域・教育学部・研究科及びシステム科学・イノベーション・持続可能開発学専攻との間で本学にとって初めての国際連携専攻(ジョイント・ディグリー・プログラム)となる、「広島大学大学院人間社会科学研究科広島大学・グラーツ大学国際連携サステナビリティ学専攻(国際連携専攻)」を2020年10月に設置し学生受入を開始した。今後更なる交流拡大に向け、2024年9月には、本学学部生を対象とした短期派遣プログラムであるSTARTプログラムにて学部学生のグループ派遣を実施する予定。</p> <p>○主な交流実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧・国際協力研究科(現・先進理工系科学研究科及び人間社会科学研究科)の講座にてこれまで26名の修士学生を1セメスターずつ受入。現在(2024年5月1日時点)で修士学生1名が本学にて修学中。 ・同大学とのジョイント・ディグリー・プログラムにて、同大学をホーム大学とする修士学生6名、本学をホーム大学とする修士学生4名が入学し、各1名の計2名が修了している。 	
② 交流に向けた準備状況	
<p>グラーツ大学とは、本事業について、海外連携大学となることについて書面にて合意が得られている。</p> <p>また、2024年4月にオーストリアで開催されたJDコンソーシアムのグローバル合同入試にて、同大学担当者と対面協議の上、本事業の実施に向けて以下の点を確認している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインセミナーの実施及び学生の参加。 ・サマーコースに修士学生を派遣すること。 ・HUSA(セメスター留学)として、相互に修士学生が1セメスター/タームの交換留学を行うこと。また、これらの学生が交換留学中に、学内外のラボ等においてインターンシッププログラムに参加すること。 ・研究ワークショップ、FD/SDの開催等、積極的な教職員交流を実施すること。 ・本事業の実施において、JV-Campusを積極的に活用すること。 <p>さらに、同大学のSDプログラムを含む多くの国際共同修士プログラムの実施、運営に関する知見や経験を本事業の運営や将来的なJD/DDプログラムの構築において支援いただく予定。</p>	

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	世界海事大学 (スウェーデン)
① 交流実績 (交流の背景)	
<p>○交流の背景</p> <p>同大学は、ロンドンにある国連の専門機関の国際海事機関(IMO)が 1983(昭和58)年にスウェーデンのマルメ市に設立した世界の海事関係者の教育と訓練を行う教育・研究機関で、海事・海洋の分野における大学院教育・専門家養成・研究において、世界の中心的な役割を担っている。また、国際的・海事コミュニティによる国際的・海事コミュニティのための組織であり、国連の持続可能な開発目標アジェンダにコミットしている。</p> <p>2023年3月に本学学長が同大学を訪問、両大学間の協力に向けた意向書(LOI)に署名するとともに、2023年7月、同大学の学長の来日に際し、大学間国際交流協定を締結。本学が全学として進める「呉市・広島大学 Town&Gown 構想」や、「海洋・海事のガバナンスと持続可能性のためのアジア拠点形成」を推進するべく、同大学との間において海洋・海事分野を中心とした学術・研究交流を今後実施する。</p> <p>○交流実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年3月に本学学長が同大学を訪問、協力に係る意向書(LOI)に署名。海の未来に向けての共同研究・教育を通じて共通の目標を達成するための緊密なパートナーシップを築くことで合意。 ・2023年7月に同大学学長が来学し、本学の学長を表敬訪問した。また、呉市・本学・海上保安大学校・公益財団法人笹川平和財団による4者協定の締結と同時に、本学と同大学間の国際交流協定締結式を開催した。 	
② 交流に向けた準備状況	
<p>WMUとは、本事業について、海外連携大学となることについて書面にて合意が得られている。</p> <p>また、同大学担当者と協議の上、本事業の実施に向けて以下の点を確認している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインセミナーの実施及び学生の参加。 ・サマーコースに修士学生を派遣すること。 ・HUSA(セメスター留学)として、相互に修士学生が1セメスター/タームの交換留学を行うこと。また、これらの学生が交換留学中に、学内外のラボ等においてインターンシッププログラムに参加すること。 ・研究ワークショップ、FD/SD の開催等、積極的な教職員交流を実施すること。 ・本事業の実施において、JV-Campus を積極的に活用すること。 	

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	バスク大学 (スペイン)
① 交流実績 (交流の背景)	
<p>○交流の背景</p> <p>本学とバスク州との交流は、2022年11月、同州内閣府の科学技術・イノベーション担当委員及び教育省の副大臣が本学を視察、Town&Gown構想等について意見交換を行ったことから加速した。2023年3月、本学の学長が同州を訪問し、教育省大臣や主要大学長と会談を行い、バスク大学との間で平和教育や海洋研究での協力教育などを促進する目的で大学間交流協定を締結。</p> <p>2023年10月には、スペイン・バスク州政府の首相が本学の東千田キャンパスを表敬訪問し、本学学長と会談。同州ではナノテクノロジー、再生医療、平和等の幅広い分野に力を入れていることに言及し、同分野を始めとした本学とバスク州の大学との今後の交流への期待を述べた。さらに2023年11月には、同大学の学長が来学し、本学の学長を表敬訪問、学生交流に関する附属書を締結。本学の施設の視察や今後の交流に向けたディスカッションを実施した。</p> <p>2024年9月には、本学学部生を対象とした短期派遣プログラムであるSTARTプログラムにて学部学生のグループ派遣を実施する予定。</p> <p>○交流実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年3月に本学学長が同大学を訪問し大学間交流を締結。 ・2023年11月に同大学学長が来学し、本学の学長を表敬訪問、学生交流に関する附属書を締結。 	
② 交流に向けた準備状況	
<p>バスク大学とは、本事業について、海外連携大学となることについて書面にて合意が得られている。</p> <p>また、同大学担当者と協議の上、本事業の実施に向けて以下の点を確認している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインセミナーの実施及び学生の参加。 ・サマーコースに修士学生を派遣すること。 ・HUSA(セメスター留学)として、相互に修士学生が1セメスター/タームの交換留学を行うこと。また、これらの学生が交換留学中に、学内外のラボ等においてインターンシッププログラムに参加すること。 ・研究ワークショップ、FD/SDの開催等、積極的な教職員交流を実施すること。 ・本事業の実施において、JV-Campusを積極的に活用すること。 	

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	ライプツィヒ大学 (ドイツ)
① 交流実績 (交流の背景)	
<p>○交流の背景</p> <p>同大学と本学は、欧州大学間の持続可能な開発に関するコンソーシアム型国際共同修士プログラム(以下、「SD プログラム」)を通じ、2010 年から長期にわたる連携実績がある。SD プログラムでは、参加大学が合同で学生選抜を行っており、学生選抜の課程や、同大学の学生受入に際し、両大学間で緊密な連携を図ってきた。本学は学位授与を行わないモビリティ大学として SD プログラムに参画し、同大学の学生を本学にて特別聴講学生として受け入れを実施してきた。さらに、教育学研究科(現・人間社会科学研究科)が 2017 年に同大学と部局間国際交流協定を締結、研究者交流を続けている。</p> <p>加えて、同大学の経済・管理学部研究科のインフラ・資源管理専攻と連携し、本学にとって初めての国際連携専攻(ジョイント・ディグリー・プログラム)となる、「広島大学大学院先進理工学系研究科広島大学・ライプツィヒ大学国際連携サステナビリティ学専攻(国際連携専攻)」を 2020 年 10 月に設置し、学生受入を開始した。今後更なる交流拡大に向け、2024 年9月には、本学学部生を対象とした短期派遣プログラムである START プログラムにて学部学生のグループ派遣を実施する予定。</p> <p>○主な交流実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧・国際協力研究科(現・先進理工系科学研究科及び人間社会科学研究科)の講座にてこれまで 13 名の修士学生を 1 セメスターずつ受入。現在(2024 年5月1日時点)で修士学生2名が本学にて修学中。 ・同大学とのジョイント・ディグリー・プログラムにて、同大学をホーム大学とする修士学生5名、本学をホーム大学とする修士学生5名が入学し、各1名の計2名が修了している。 	
② 交流に向けた準備状況	
<p>ライプツィヒ大学とは、本事業について、海外連携大学となることについて書面にて合意が得られている。また、2024 年4月にオーストリアで開催された JD コンソーシアムのグローバル合同入試にて、同大学担当者と対面協議の上、本事業の実施に向けて以下の点を確認している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインセミナーの実施及び学生の参加。 ・サマーコースに修士学生を派遣すること。 ・HUSA(セメスター留学)として、相互に修士学生が1セメスター/タームの交換留学を行うこと。また、これらの学生が交換留学中に、学内外のラボ等においてインターンシッププログラムに参加すること。 ・研究ワークショップ、FD/SD の開催等、積極的な教職員交流を実施すること。 ・本事業の実施において、JV-Campus を積極的に活用すること。 	

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

プログラム計画の実現性、プログラムの発展性、交流プログラムの質の向上のための評価体制 【①は1ページ以内、②～④は合わせて3ページ以内】
① 年度別実施計画
【2024年度（申請時の準備状況も記載）】
2025年度からの学生交流の実施に向けた準備の年度 ○事業実施体制の確立(担当コーディネーターの雇用、実施部会の立ち上げ等)及び事業実施部会の開催 ○相手大学との本事業に係る学生交流附属書の締結 ○海外の相手大学とのキックオフ会議及び合同プログラム委員会を開催 ○オンラインセミナーの実施 ○事業ホームページの立ち上げ ○次年度からの学生受入に関する学生選抜及び受入環境整備、次年度学生派遣の準備 ○相手大学訪問、現地視察と教育プログラムに関する打ち合わせ(受入環境と安全管理に関する確認)
【2025年度】
全ての派遣受入のプログラムを実施する年度 ○相手大学訪問、現地視察と教育プログラムに関する打ち合わせ(受入環境と安全管理に関する確認) ○事業実施部会及び相手大学との合同プログラム委員会の開催(相手大学の教員を招聘) ○相手大学の教員を招聘し、プログラム実施に関する事項及び共同研究の打ち合わせ ○派遣・受入プログラムの実施(関係機関・企業視察等含む) ○事業の学内外への広報及び留学報告会の開催 ○外部評価委員会の実施、外部アドバイザーからの助言 ○参加学生の評価とフォローアップ
【2026年度】
プログラムの立ち上げと実施を通じての課題抽出及び改善を行う年度 ○相手大学訪問、現地視察と教育プログラムに関する打ち合わせ(特に、交流実施初年度を終えての改善点) ○事業実施部会の開催及び相手大学との合同プログラム委員会の開催 ○相手大学の教員を招聘し、プログラム実施に関する事項及び共同研究の打ち合わせ ○派遣・受入プログラムの実施(企業視察等含む) ○事業の学内外への広報及び留学報告会の開催 ○外部評価委員会の実施、外部アドバイザーからの助言 ○参加学生の評価とフォローアップ
【2027年度】
事業終了後を見据えた取組方法、プログラムの改善を進める年度 ○相手大学訪問、現地視察と教育プログラムに関する打ち合わせ(学生交流の拡大と、事業終了後の継続) ○事業実施部会及び相手大学との合同プログラム委員会の開催 ○相手大学の教員を招聘し、プログラム実施に関する事項及び共同研究の打ち合わせ ○派遣・受入プログラムの実施(企業視察等含む) ○事業の学内外への広報及び留学報告会の開催 ○外部評価委員会の実施、外部アドバイザーからの助言 ○参加学生の評価とフォローアップ
【2028年度】
事業終了後も継続してプログラムを円滑に移行する年度 ○相手大学訪問、現地視察と教育プログラムに関する打ち合わせ(事業終了後の継続に関する実施体制) ○事業実施部会及び相手大学との合同プログラム委員会の開催 ○相手大学の教員を招聘し、プログラム実施に関する事項及び共同研究の打ち合わせ ○派遣・受入プログラムの実施(企業視察等含む) ○事業の学内外への広報及び留学報告会の開催 ○外部評価委員会の実施、外部アドバイザーからの助言 ○本事業の総括会議及び成果報告会の実施(補助事業期間後のプログラム継続体制への移行) ○参加学生の評価とフォローアップ

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

② 交流プログラムの質の向上のための評価体制

○プログラム実施部会による通常業務の点検と改善

本事業のプログラム運営委員会のもと、本事業責任者の理事・副学長(グローバル化担当)を部会長とし、学部・研究科の担当教職員と国際部で構成する本事業の実施部会を学内に設置する。学生の派遣受入プログラム運営、相手大学との調整業務等が適切で実効的であるか、円滑なプログラム提供がされているか、課題とその改善等について、定期的に点検・調整を行う。

○カリキュラム・単位互換・学修効果の質保証

本学と海外の参加大学の本事業担当教員から成るプログラム運営委員会が、定期的に交流学生の学修成果とカリキュラム、教育方法、授業科目の内容との整合性について点検する。

学修成果については、SERU 学生調査、BEVI 指標等及びコンピテンシーの修得状況、カリキュラム・教育方法・授業科目についてはその内容と単位互換のための情報共有、必要に応じてピアレビューを実施し、PDCA サイクルを実行して事業の改善を図っていく。

○参加学生の評価・意見を改善につなげる取組

本学では、全ての講義科目について授業評価アンケートを実施している。本事業のプログラムを構成する授業科目についても、評価アンケートを実施する。評価結果については、プログラム運営委員会でとりまとめ、担当教員にフィードバックすることで授業改善に努める。また、各プログラムの終了時にも、参加学生にアンケート調査を行い、その回答を踏まえてプログラム改善に努める。これらの調査結果や留学中の学生からの要望についても、プログラム運営委員会で対応し、点検・改善プロセスについて、実施部会及びプログラム運営委員会に報告し、達成状況、改善について関係者で共有する。

○SERU による教育の国際的質保証

本学は、2014 年に米国のトップレベルの研究大学等を含む、教育の質保証を評価するための国際コンソーシアム Student Experience in the Research University (SERU) に加盟した。SERU の調査によって、学生の学修環境、意識、将来計画等について把握する。SERU によって得られた指標を、SERU コンソーシアムに加盟する海外大学の学生と比較することで、国際的な教育の質保証、教育プログラムの国際通用性を確保し、その評価結果をプログラム改善に活用する。

○BEVI テスト等による学生の留学前後の変化分析によるプログラム改善

BEVI を用いて、各学生が自身の成長を確認するとともに、得られた指標をプログラムの評価・改善に活用する。これまで本学が採択された大学の世界展開力強化事業においても BEVI テストによる留学プログラム成果の比較分析を行っている。本事業の指標も加えることで、より効果的なプログラム改善へとつなげる。BEVI については、近年オンラインのプログラムでも活用されている。本事業のオンラインセミナーについても、実際の派遣/受入プログラムとの指標の比較を行うことで、海外留学を伴わないオンラインプログラムの改善に活用することが可能である。

○外部アドバイザー及び企業・自治体関係者による改善活動

AI の活用及び海洋・海事に関わる機関・企業や地方自治体・教育関係者から、人材育成について助言を得る体制を整備する。アドバイザーには、AI の活用及び海洋・海事分野、並びに参加大学の所在する国の事情等に精通する有識者を想定している。

○外部評価委員会による改善活動

国際的な教育交流に関する有識者、国際支援機関、企業・地元自治体の関係者等から成る外部評価委員会を設置する。プログラム運営委員会は、SERU、BEVI 等の成果指標分析結果及びプログラム委員、プログラム参加学生へのアンケート結果やヒアリングに基づき、当該年度のプログラム自己点検を実施する。本事業のプログラム運営委員会は、年度末に、外部評価委員会を開催し、当該年度の活動報告、自己評価結果を、外部評価委員に報告する。そして、外部評価委員から本事業の実効性、運営の効率性等についてのピアレビューとアドバイスを受け、事業改善につなげる。外部評価委員会からの指摘については、海外連携大学、プログラムの産官学連携機関とも共有する。プログラム運営委員会は、得られた評価をもとに、次年度の事業計画、事業目標を策定する。想定する主な評価項目は次の通り。

評価項目	評価内容
学生の選抜	ポリシーに沿って、事業内容を十分理解した適切な学生が選抜されているか。
事前・事後指導	学修内容、渡航先機関情報、安全情報、交流相手国の生活文化等について十分学ぶ機会を提供しているか。
プログラム内容	<ul style="list-style-type: none"> ・多国間学習プログラムとして、参加学生に、日欧で学ぶ意義、学修目標が適切に設定され、学生がそれに沿って学習を進めているか。 ・参加学生は、プログラムが設定した人材育成目標を達成しているか。 ・オンラインでの学修活動において、十分な交流成果が得られているか。参加学生は、十分な学習成果を得ているか。

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

産官学連携	産官学連携をすすめる、学生に多様な学習機会を提供できているか。
情報提供	・参加者がいつでもプログラムについて情報を得ることができているか。 ・オンラインのコミュニティが適切に機能しているか。
学生支援	・十分な学生支援体制が提供されているか。 ・受入機関として、学生の信頼を得ているか。
③ 補助期間終了後のプログラム展開	
<p>○本学の留学交流プログラムの事業展開</p> <p>本学では、大学の世界展開力強化事業における交流を継続的に実施していくために、全学の国際交流事業を推進するための協議体であるグローバル化推進部会の下、各事業と連携の上、それぞれの留学交流プログラムの運営の効率化に努めている。</p> <p>本事業で実施するオンラインセミナーやサマーコース(ハイブリッド)及び、HUSA プログラム(中期・派遣/受入)は、既存のオンライン、短期、中期の留学プログラムの枠組みを利用し、それらの相乗効果を発揮するように再配置した体系的プログラムである。本学の第4期中期計画に示す「海外派遣人数の拡大、優秀な留学生の積極的な獲得のための本学独自の多彩な国際交流プログラムの拡充」に合わせて、本事業の成果について分析し、現在の本学が実施しているオンライン、短期派遣/受入、中期派遣/受入についても、中長期的には大学院の受験者数の増加並びに海外からの優秀な留学生の獲得につなげることで、本学が目指すグローバル人材の育成を目指す。</p> <p>また、本事業は、本学の既存の留学交流事業のノウハウを活用しながら、既存の欧州大学間のコンソーシアム型修士プログラム(SD プログラム)及び、2つの国際連携専攻(ジョイント・ディグリー・プログラム(JD))のフレームワークを基盤としてその延長線上に発展させた事業として位置づけられている。そのため、補助期間終了後も継続的な実施が可能である。</p> <p>また、本事業では、AI及び海洋・海事分野の最先端研究・教育プログラムを行う欧州の大学を新たに招聘し、「SDGsにおけるAI技術応用」と「海洋・海事」の専門科目分野を既存のJDに組み込み、専門科目分野の拡張を行うことを目的としている。AI技術の応用に関しては、参加大学での取り組みは始まったばかりではあるものの、各大学は高い関心を示しており、事業期間中の各交流プログラムの実施や教職員交流を通じて、今後連携を深めていく。</p> <p>そのため、本学だけでなく海外連携大学においても、補助期間終了後も、継続すべき優先度の高い事業として、全学的な支援体制のもとで事業を展開・継続することが計画されている。</p> <p>さらに、今後、学内で大学の世界展開力強化事業を効率的、効果的に運営するために、既に終了した事業や現在継続中の事業のノウハウや人的リソースを集約して、将来的な事業申請をも見据えた持続的な運営体制を構築する予定である。</p>	
④ 補助期間終了後のプログラム展開に向けた資金計画	
<p>○事業実施経費</p> <p>本事業は、2027年度(事業4年目)から、実施経費の一部に本学の自己資金を充当し、事業終了後の自走化に向けて、自己資金比率を上げ、補助期間終了後も本事業を継続していく。本事業は、本学の長期ビジョン「SPLENDER PLAN2017」で謳う「多様性をはぐくむ自由で平和な国際社会の実現」に資する「平和を希求しチャレンジする国際的教養人」の育成に通じる取組みである。事業資金として、学長裁量経費、広島大学冠事業基金を自己資金として充当することを計画している。そのほか、日・欧州の共同研究、国際協力事業、国費留学生優先配置等の枠組みを利用した大学間交流を続けていく。</p> <p>さらに広島大学基金児玉派遣留学奨学金等の奨学金や、広島県下の企業連合からの奨学寄付金(既に基金化)の活用、さらには笹川平和財団等の外部資金を模索しながら、自走化ステップへ発展させる。</p> <p>○学生支援経費</p> <p>補助期間終了後も、本事業の実施に伴い締結した協定並びに学生交流附属書を継続する。また、日本学生支援機構(JASSO)海外留学支援制度等の資金を活用した支援を行っていくほか、学生自身が留学経費を獲得することを推奨し、トビタテ留学 JAPAN や民間企業等の奨学金への応募支援を行う。</p> <p>○海外連携大学の予算の活用について</p> <p>海外連携大学の持つ学生の国際交流に関する奨学金や支援を、本事業における積極的な活用についても、協議・交渉を行う。事業期間終了後も、海外連携大学からの優秀な学生への留学機会の確保に努める。</p> <p>○エラスムス等の共同申請について</p> <p>上述の各大学の予算に加えて、本事業の地域的特性を生かし、本事業で連携する海外の大学と共同でエラスムス奨学金等の外部資金に係る情報提供を依頼するとともに、本事業以外の外部資金の共同申請についても継続的に協議していく。</p>	

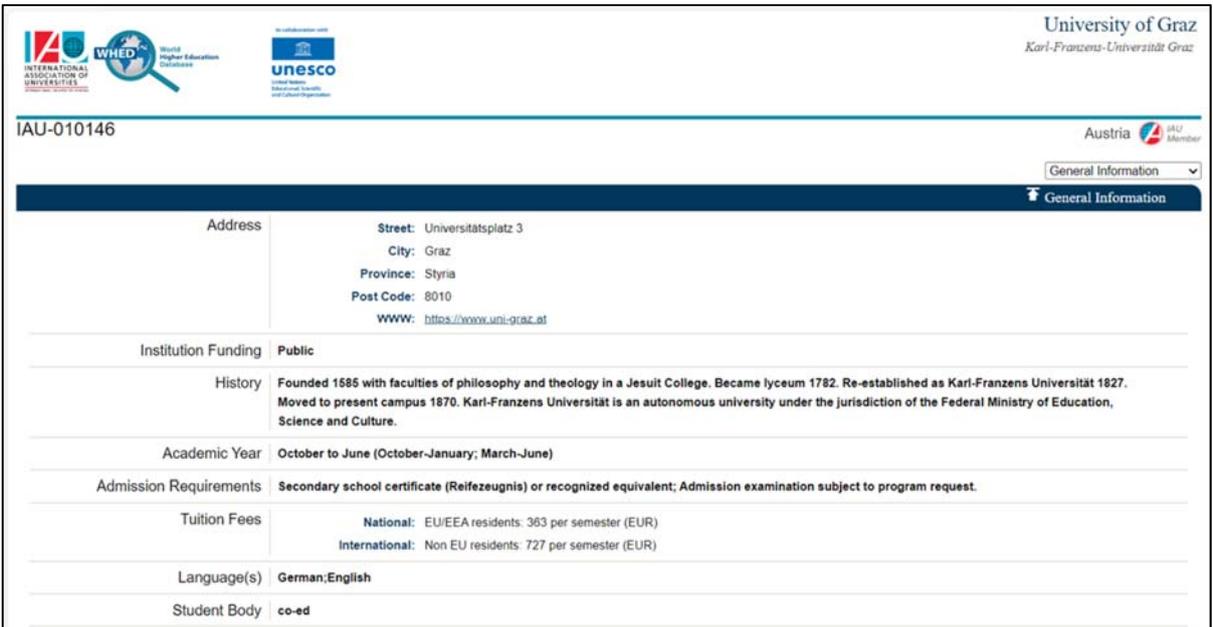
(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】			
① 交流プログラムを実施する相手大学の概要			
大学名称	(日) ベニス大学 (英) Ca' Foscari University of Venice	国名	イタリア
設置形態	公立	設置年	1868
設置者(学長等)	Tiziana Lippiello		
学部等の構成	人文学、分子科学、環境・情報・統計学、経営学、経済学、哲学・文化遺産学、言語学・比較文化学、アジア・北アフリカ研究、		
学生数	総数 19,000	学部生数	大学院生数
受け入れている留学生数	2,100	日本からの留学生数	不明
海外への派遣学生数	不明	日本への派遣学生数	不明
Web サイト (URL)	https://www.unive.it/		
② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。 また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。 ○海外相手大学が公的な認可等（海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのア kredィテーション、IAU (International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等) を受けている大学であるか。			
  			
IAU-018753 Italy https://www.whed.net/institutions/IAU-018753			
General Information			
General Information			
Address	Street: Dorsoduro 3246 City: Venezia Post Code: 30123 WWW: https://www.unive.it		
Institution Funding	Public		
History	Founded in 1868 as "Regia Scuola Superiore di Economia e Commercio", the institution acquired the status of University in 1935. It is a national institution financially supported by the Italian Government, and is endowed with administrative autonomy		
Academic Year	November to October		
Admission Requirements	School-leaving qualification conferred on completion of a minimum of 12 years of secondary education		
Language(s)	Italian;English		
Accrediting Agency	Ministry of Education, University and Research		
Student Body	co-ed		

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

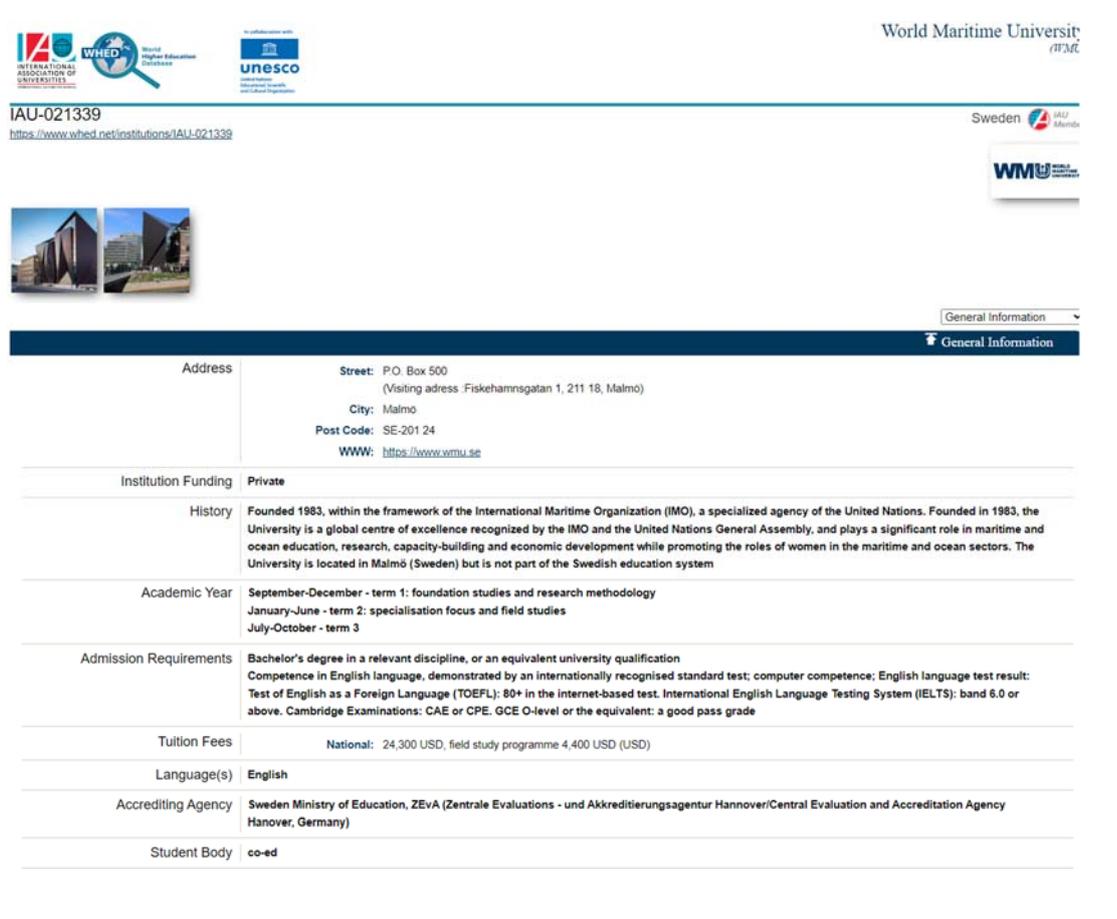
(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】						
① 交流プログラムを実施する相手大学の概要						
大学名称	(日)	グラーツ大学			国名	オーストリア
	(英)	University of Graz				
設置形態	公立		設置年	1585		
設置者(学長等)	Peter Riedler					
学部等の構成	人文学、カトリック神学、自然科学、法学、社会・経済科学、環境・地域・教育科学					
学生数	総数	31,500	学部生数	74%	大学院生数	26%
受け入れている留学生数	3,053		日本からの留学生数	不明		
海外への派遣学生数	不明		日本への派遣学生数	不明		
Web サイト (URL)	https://www.uni-graz.at/					
② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。 また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。 ○海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアクレディテーション、IAU(International Association of Universities)のWHED(World Higher Education Database)掲載大学であること等)を受けている大学であるか。						
						

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】						
① 交流プログラムを実施する相手大学の概要						
大学名称	(日)	世界海事大学			国名	スウェーデン
	(英)	World Maritime University				
設置形態	私立		設置年	1983		
設置者(学長等)	Max Mejia					
学部等の構成	大学院プログラム(海事、海事エネルギー、国際海事法、海事保険法、海事管理、海事福祉)					
学生数	総数	350	学部生数		大学院生数	
受け入れている留学生数	不明		日本からの留学生数	不明		
海外への派遣学生数	不明		日本への派遣学生数	不明		
Web サイト(URL)	https://www.wmu.se/					
② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。 また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。 ○海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのア krediteーション、IAU(International Association of Universities)のWHED(World Higher Education Database)掲載大学であること等)を受けている大学であるか。						
 <p>The screenshot shows the official website of World Maritime University (WMU). At the top, there are logos for IAU (International Association of Universities), WHED (World Higher Education Database), and UNESCO. The main header includes the university's name and logo. Below the header, there is a navigation menu with 'General Information' selected. The 'General Information' section is expanded, showing the following details:</p> <ul style="list-style-type: none"> Address: Street: P.O. Box 500 (Visiting address: Fiskehamngatan 1, 211 18, Malmö); City: Malmö; Post Code: SE-201 24; WWW: https://www.wmu.se Institution Funding: Private History: Founded 1983, within the framework of the International Maritime Organization (IMO), a specialized agency of the United Nations. Founded in 1983, the University is a global centre of excellence recognized by the IMO and the United Nations General Assembly, and plays a significant role in maritime and ocean education, research, capacity-building and economic development while promoting the roles of women in the maritime and ocean sectors. The University is located in Malmö (Sweden) but is not part of the Swedish education system. Academic Year: September-December - term 1: foundation studies and research methodology; January-June - term 2: specialisation focus and field studies; July-October - term 3 Admission Requirements: Bachelor's degree in a relevant discipline, or an equivalent university qualification; Competence in English language, demonstrated by an internationally recognised standard test; computer competence; English language test result: Test of English as a Foreign Language (TOEFL): 80+ in the internet-based test. International English Language Testing System (IELTS): band 6.0 or above. Cambridge Examinations: CAE or CPE. GCE O-level or the equivalent: a good pass grade Tuition Fees: National: 24,300 USD, field study programme 4,400 USD (USD) Language(s): English Accrediting Agency: Sweden Ministry of Education, ZEVA (Zentrale Evaluations- und Akkreditierungsagentur Hannover/Central Evaluation and Accreditation Agency Hanover, Germany) Student Body: co-ed 						

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】						
① 交流プログラムを実施する相手大学の概要						
大学名称	(日)	バスク大学		国名	スペイン	
	(英)	The University of the Basque Country				
設置形態	公立		設置年	1980		
設置者(学長等)	Nekane Balluerka					
学部等の構成	芸術学、化学技術学、社会科学・コミュニケーション学、法学、教育学、医学・看護学、経済・ビジネス学、工学、心理学、化学、教育・哲学・文化人類学					
学生数	総数	38,301	学部生数	35,397	大学院生数	2,904
受け入れている留学生数	1,502		日本からの留学生数	不明		
海外への派遣学生数	不明		日本への派遣学生数	不明		
Web サイト (URL)	https://www.ehu.es/					
② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。 また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。 ○海外相手大学が公的な認可等（海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアクレディテーション、IAU (International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等)を受けている大学であるか。						
						

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】			
① 交流プログラムを実施する相手大学の概要			
大学名称	(日) ライプツィヒ大学 (英) Leipzig University	国名	ドイツ
設置形態	公立	設置年	1409
設置者(学長等)	Beate Schücking		
学部等の構成	神学、法学、歴史・芸術・東洋学、文献学、教育学、社会科学・哲学、経済・経営学、スポーツ科学、医学、数学・コンピューターサイエンス学、バイオサイエンス・薬学・心理学、物理・地球科学、化学・鉱物学、獣医学		
学生数	総数 28,164	学部生数	大学院生数
受け入れている留学生数	3,174	日本からの留学生数	不明
海外への派遣学生数	不明	日本への派遣学生数	不明
Web サイト (URL)	https://www.uni-leipzig.de/		
② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。 また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。 ○海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのア krediteーション、IAU(International Association of Universities)のWHED(World Higher Education Database)掲載大学であること等)を受けている大学であるか。			
 <div style="text-align: right;">University of Leipzig Universität Leipzig</div>			
IAU-019349		Germany	
General Information			
General Information			
Address	Street: P.O. Box 100920 Ritterstraße 26 City: Leipzig Province: Saxony Post Code: 04009 WWW: http://www.uni-leipzig.de		
Institution Funding	Public		
History	Founded 1409 when German scholars withdrew from the University of Prague. The establishment of the University was confirmed by Papal Bull. Reorganized 1946. The University has always adhered to the model of the Universitas Literarum		
Academic Year	October to September (October-March; April-September)		
Admission Requirements	Secondary school certificate (Reifezeugnis) or equivalent		
Language(s)	German;English		
Student Body	co-ed		

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

参考データ【国内の大学等1校につき、①～③は枠内に記入。④～⑤はそれぞれ指定ページ以内】					
※人数等の算定に当たっては、原則として「学校基本調査」による定義に基づき記入。					
大学等名		広島大学			
① 大学等全体における出身国別の留学生の受入人数（2023年5月1日現在）及び各出身国（地域）別の2023年度の留学生受入総数					
※「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表1に定める「留学」の在留資格を有する者に限る。					
※「2023年度受入総数」は、2023年4月1日～2024年3月31日の出身国（地域）別受入人数を記入。					
※「全学生数」には、日本人学生及び外国人留学生を含めた大学等全体の2023年5月1日現在の在籍者数を記入。					
順位	出身国（地域）		2023年5月1日時点 受入人数	2023年度 受入総数	
1	中国		1029	1423	
2	インドネシア		96	137	
3	ベトナム		65	81	
4	バングラデシュ		47	67	
5	カンボジア		45	67	
6	大韓民国		34	43	
7	台湾		22	38	
8	ミャンマー		22	25	
9	インド		21	34	
10	フィリピン		21	29	
その他 (上記10カ国以外)	(主な 国名)	タイ、パキスタン、スリランカ、マレーシア、アメリカ等	328	510	
留学生の受入人数の合計			1726	2454	
全学生数			15151		
留学生比率			11.4%		
② 2023年度中に留学した日本人学生数及び派遣先大学合計校数					
※教育又は研究等を目的として、2023年度中（2023年4月1日から2024年3月31日まで）に海外の大学等（海外に所在する日本の大学等の分校は除く。）に留学した日本人学生について記入。					
なお、2023年3月31日以前から継続して留学している者は含まない。					
順位	派遣先大学の所在国（地域）		派遣先大学名		2023年度 派遣人数
1	オーストラリア		ニューサウスウェールズ大学		143
2	台湾		国立中央大学		19
3	アメリカ		テキサス大学オースティン校		18
4	台湾		国立台湾大学		14
5	韓国		ソウル教育大学		14
6	中国		大連理工大学		13
7	エジプト		エジプト日本科学技術大学、 アインシャムス大学		12
8	リトアニア		ヴィータウタス・マグナス大学		12
9	中国		大連民族大学校		11
10	マラウイ・ザンビア		マラウイ大学、ザンビア大学		10
その他 (上記10カ国以外)	(主な国名)	イギリス、タイ等	(主な大学名)	シェフィールド大学、カセサート大学等	265
	計	29カ国	計	130校	
派遣先大学合計校数					130
派遣人数の合計					531

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

大学等名	広島大学						
③ 大学等全体における外国人教員数（兼務者も含む）（2024年5月1日現在）							
※「全教員数」には大学等に在籍する日本人教員も含めた全教員数を記入。 ※「うち専任教員（本務者）数」には教授、准教授、講師、助教、助手の専任の外国人教員の数をそれぞれ記入。（いずれにも当てはまらない場合には、「助手」に含めること。）							
全教員数	外国人教員数						外国人教員の比率
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	
2936	19	55	6	77	69	226	7.7%
うち専任教員（本務者）数	19	55	6	77	0	157	

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

大学等名	広島大学
④ 取組の実績【4 ページ以内】	
<p>○国際的な教育環境の構築実績</p> <p>(1)英語による授業科目数の増加 急増する留学生に幅広い専門性を学べる環境を提供するため、英語による授業科目の開講を推進している。2023 年度は、全授業科目の 43.4%にあたる 5,681 科目(学部 1,688 科目、大学院 3,993 科目)を英語で開講した。 学士課程では、国際歯学コースを開講し、2年生、3年生の歯学専門科目(講義・演習)の全てを英語でも履修可能とした。2013 年採択「大学の世界展開力強化事業」では、英語による授業科目を 2016 年度に 40 科目(学士課程の英語による授業科目の 7%)開講し、全学の取組を牽引した。 また、2018 年4月には英語による授業のみで学士号を取得できる新学科(総合科学部国際共創学科)を設置した。また、全学的に、英語による学士課程プログラムの新設を進め、2021 年度までに全ての学部で開設した。 大学院課程では、2016 年度までに全ての理系の研究科に英語のみで卒業が可能なコースを設置した。また、人間社会科学研究科(国際平和共生プログラム、国際経済開発プログラム及び国際教育開発プログラム)(2020 年4月改組)では、全開講科目の 90%以上が英語で授業を行っており、国際協力機関等に勤務するグローバル人材や各国の主要研究機関の研究者等、多数の修了生を途上国開発人材として輩出している。 以上により英語による教育実践のノウハウを十分に蓄積していると言える。</p> <p>(2)ダブル・ディグリープログラム(DD)の実施 海外拠点を置く中国の首都師範大学との間で 2015 年に「首都師範大学・広島大学共同大学院プログラム」を開設した。 これは、学士課程は首都師範大学、修士課程は DD を実施、博士課程は広島大学で教育するプログラムである。うち修士 DD では、4つの研究科が参画して募集とマッチングを行い、2021 年に第6期生4名が入学した。この全学的な DD を先導的に実施することにより、学内で実施に関する知識・経験が蓄積され、部局間 DD 協定の締結促進に繋がった。現在、30 のダブル・ディグリープログラム協定を締結し、プログラムを実施している。</p> <p>(3)ジョイント・ディグリープログラム(JD)の実施 オーストリア・グラーツ大学、ドイツ・ライプツィヒ大学、イタリア・ベニス大学、オランダ・ユトレヒト大学の欧州 4 大学が実施する、持続可能な開発のための国際共同修士プログラムに 2008 年より参加してきた実績を基に、グラーツ大学及びライプツィヒ大学とそれぞれジョイント・ディグリー・プログラム(JD)新設に向けて調整を進めてきた。 2019 年 12 月に文部科学省から同プログラムの設置が認められ、2020 年 10 月に以下の国際連携専攻を開設した。現在 12 名在籍、これまでに4名が修了した。 ◇人間社会科学研究科広島大学・グラーツ大学国際連携サステナビリティ学専攻 ◇先進理工系科学研究科広島大学・ライプツィヒ大学国際連携サステナビリティ学専攻</p> <p>(4)交換留学プログラムの実施 広島大学短期交換留学プログラムとして、協定校から受け入れた留学生向けに日本文化・日本事情の他、法学、経済、化学、物理など多様な英語科目を提供し、全ての学業成績の単位認定に UCTS(アジア・太平洋大学交流機構(UMAP)単位互換制度)を採り入れ(欧州は ECTS)、協定校との単位互換・成績管理を行っている。 また、2013 年度以降、採択されている「大学の世界展開力強化事業」では、対象地域の大学との中長期の学生交流を実施し、交換留学での学生交流数が大きく増加した。事業期間が終了したプログラムにおいても、継続して中長期の学生交流を実施している。</p> <p>(5)学生国際交流事業の実施 「大学の世界展開力強化事業」に関しては、インド、アフリカ、東・東南アジア、インド太平洋地域、米国等のプログラムが採択され、短期と長期、オンサイトとオンラインを組み合わせた多層的な双方向の学生交流を実施している。 また、各学部・研究科においても、外国の大学との各専門分野における学生交流を活発に実施している。単位互換を行うなど、質の保証を伴った上で、学生交流数の増加とプログラムの多様化を進めている。</p>	

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

(6)学生受入プログラムの実施

短期(2週間程度)の「日本語・日本文化特別研修」について、2022年度は現地研修2コース及びオンライン(2021年度に新設)4コースを実施し、アジア圏から現地研修46人及びオンライン319人の学生を受け入れた。

また、2016年から「森戸国際高等教育学院3+1プログラム」を開始し、2016年度は26人、2017年度は90人、2018年度は146人、2019年度は159人、2020年度はコロナ禍の影響を受け43人、2021年度は56人、2022年度は90人の学生を3ターム間又は1年間受け入れている。留学生の増加に対応できるよう、森戸国際高等教育学院を中心とした留学生に対する日本語教育体制の強化も進めている。

(7)STARTプログラム

国際交流や長期留学への関心を高めることを目的に、海外経験の少ない学部生を休業期間中に海外の協定大学等へ1～2週間程度派遣する「STARTプログラム」を2010年より実施している。学内予算や基金等を活用して、学生の参加費用の一部を補助する形で2023年度までに計86回実施し、累計で1965名の学生を派遣した。

(8)e-STARTプログラム

新型コロナウイルス感染症の影響により、「STARTプログラム」をはじめとした渡航を伴う形での学生の海外派遣・留学ができない状況を踏まえ、2020年にオンラインで海外大学の教員・学生と交流する国際交流教育プログラム「e-STARTプログラム」を新設し2023年度までに、62コースを実施し、473名の本学学生が参加した。

○国際化に対応した教員採用と資質向上**(1)外国人教員等の採用**

2015年度末までに外国人教員比率を5%程度まで増加させる目標を設定し、これを達成した。

2016年度からは、教員の公募を原則国際公募としたほか、英語での教育・研究指導ができることを公募・教員選考の基本方針とした。2020年度からは、配置から候補者選考までを学術院会議及び全学人事委員会の議を経て学長が決定するガバナンス体制に移行した。その徹底したガバナンス体制の下で、外国人教員や海外で英語による教授経験のある人材を戦略的・計画的に採用している。

待遇面においては、2009年度から、特に傑出した研究者を国内外から招聘する方策の一つとして、特任教員等に年俸制を導入した。

2014年度には、月給制の給与設定をベースに、業績給のウェイトを拡大し、より大きなインセンティブの付与が可能となる年俸制(旧年俸制)を常勤教員にも導入し、新規採用の助教、外国人教員は全て年俸制(旧年俸制)適用とした。

その後、2020年度には、業績評価及び勤務成績を踏まえて月給制よりも昇給幅や賞与の増額幅を大きくすることで、メリハリのある処遇反映を可能とした新たな年俸制(年俸制(I))を導入した。

さらに、2021年度には、年俸制(I)について基本年俸の昇給幅や業績年俸の増額割合の見直しを行い、業績に応じた一定のメリハリを確保しつつ、給与の安定性を確保するため、年俸額(基準額)を増額した制度(年俸制(II))を導入した。(2024年3月31日現在年俸制適用者39.0%)

また、2020年度からは、優れた大学教員(特に若手教員)の確保・育成のため、既に導入しているテニュアトラック制度を見直し、「准教授」「講師」「助教」で採用される全教員に原則テニュアトラック制を適用している。新たなテニュアトラック制度は、5～7年後にテニュア審査を行い、審査に合格すれば、上位職への昇任を可能としている。更に、採用されたテニュアトラック教員(助教、育成助教及び選抜助教)に対して、スタートアップ経費の措置及びメンター教員を配置するなど、教員が自立して教育研究活動を行うことのできる支援体制を構築している。

(2)FDによる教員の資質向上

本学で採用した新任教員には、原則として研修の受講を必須化とする「新任教員研修プログラム」により体系的な研修機会が提供され、新任以外の教員も積極的に参加している。

また、英語で授業を行うための全学FDを2011年度から毎年実施している。2016年度からは「英語による授業の方法」をFDとして内容を改善しながら、継続的に開催し、教員の教育力等の向上に常に努めている。

○事務体制の国際化**(1)英語のできる国際担当職員の配置**

国際担当職員を戦略的に採用するため、TOEIC点数を参考指標とするとともに、留学や海外勤務経験を重視した事務職員の採用を実施している。外国大学の学位取得者は、国際大学間連携や国際産学連携など高い専門性を要する部署等に配置している。また、学内の各種情報システムの英語版の作成あるい

は日英併記、2013 年度から導入したりサーチアドミニストレーター等による外国人教員等への対応や研修機会の提供等により、外国人研究者がその能力を十分に発揮できる環境を整えている。

(2)職員の語学研修プログラム

文部科学省や日本学術振興会の長期海外派遣研修制度を活用して毎年1～2名を、米国、中国、欧州各国等へ派遣している。2015 年度からは TOEIC スコアが不明な職員全員に TOEIC(IP)試験の受験を義務付け、個々の職員の英語能力を把握している。職員が各自で英語能力の目標を設定し継続的な英語学習を動機付けるよう、語学研修や海外派遣型研修等、様々な研修を提供している。

○厳格な成績管理などの単位の実質化への取組

(1)厳格な成績管理と履修可能な上限単位数の設定

本学では、全学的に算出方法を統一した GPA を 2006 年度学部入学生から導入しており、GPA の計算式の分母を「総登録単位数」とすることで、単位の過剰登録の防止策としても有効に活用している。

なお、GPA 算出の基盤となる成績評価が厳格でかつ適正な評価となるよう、2013 年度に教養教育科目及び専門教育科目の成績評価のガイドラインを導入し、成績評価の方法については定期試験、小テスト、レポート、授業中の活動学習記録等の多様な要素の中から授業の方法や目的に応じた評価方法を選択しできる限り複数の要素を用いて行うものとし、授業への出席回数については期末試験等の受験要件としてのみ用い、成績評価の要素としないことを定めている。

また、極端に偏った成績分布とならないよう、試験の難易度や成績評価に占めるその比重等を適切に設定するよう定めるなど教育の質の向上を図っている。更に、2016 年度には、学生からの成績評価に対する異議申立制度を全学的に導入している。全学部においてキャップ制度を導入しており、例えば総合科学部では、一学期で取得できる単位上限を 26 単位とする等、単位の実質化に取り組んでいる。

2020 年度には、期末試験等の実施についてのガイドラインに、オンラインで実施する場合を新たに定め、適正な試験実施と不正行為の未然防止に努めている。

2021 年度には、外国に滞在したまま本学のオンライン授業を履修する場合や、日本にいながらオンラインで外国の大学又は短期大学の授業科目を履修している場合の取扱いを定め、授業の質保証を図っている。

(2)シラバスの活用と出口管理の厳格化

本学が独自に開発した「到達目標型教育プログラム(HiPROSPECTS®)」では、卒業時に身につけておくべき知識や能力を「到達目標」として予め明示するとともに、学期毎に到達度評価を行い、その結果を基に次学期に向けた履修指導を行うなどして、卒業時の質保証に取り組んでいる。

また、シラバスは到達目標型教育プログラムの中での授業の位置づけ、授業概要、到達度評価の評価項目、キーワード、授業方法(オンラインを活用した授業の実施方法、使用するメディア・機器、授業で取り入れる学習手法を含む)、15 回分の詳細な授業計画、15 回分の予習・復習へのアドバイス、受講条件、成績評価の基準・配分、教員からのメッセージ等で構成され、統一様式により学生情報システム「もみじ」上で常時閲覧可能にしている。

また、2016 年5月1日時点で全てシラバスのナンバリング及び英語化を完了し、現在も継続して取り組んでいる。

2021 年度からは、対面、オンラインといった項目を加え、多様な授業の実施方法を正確に学生へ示している。

2023 年度からは、各学部・研究科又はプログラムによる記載内容のチェックに加え、教育室においても不備確認を行い、シラバスの適正化を図っている。

○英語による授業科目数・割合

	平成25年度 (通年)	平成26年度 (通年)	平成27年度 (通年)	平成28年度 (通年)	平成29年度 (通年)	平成30年度 (通年)	令和元年度 (通年)	令和2年度 (通年)	令和3年度 (通年)	令和4年度 (通年)	令和5年度 (通年)
英語による授業科目数①	442 科目	691 科目	988 科目	2,374 科目	3,010 科目	3,423 科目	4,835 科目	6,112 科目	6,088 科目	5,921 科目	5,681 科目
うち学部	84 科目	215 科目	236 科目	565 科目	817 科目	1,086 科目	1,413 科目	1,492 科目	1,621 科目	1,679 科目	1,688 科目
うち大学院	358 科目	476 科目	752 科目	1,809 科目	2,193 科目	2,337 科目	3,422 科目	4,620 科目	4,467 科目	4,242 科目	3,993 科目
全授業科目数②	14,764 科目	13,864 科目	12,973 科目	12,424 科目	12,653 科目	12,492 科目	14,964 科目	16,146 科目	14,504 科目	13,583 科目	13,090 科目
うち学部	5,817 科目	5,790 科目	5,590 科目	5,532 科目	5,468 科目	5,504 科目	5,697 科目	5,696 科目	5,790 科目	5,767 科目	5,784 科目
うち大学院	8,947 科目	7,874 科目	7,383 科目	6,892 科目	7,185 科目	6,988 科目	9,267 科目	10,450 科目	8,714 科目	7,816 科目	7,306 科目
全授業科目における英語による授業科目の割合(①/②)	3.0 %	5.1 %	7.6 %	19.1 %	23.8 %	27.4 %	32.3 %	37.9 %	42.0 %	43.6 %	43.4 %

(出典：スーパーグローバル大学創成支援 令和5年度フォローアップ調査より抜粋)

○交換留学(受入)実績

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
受入国・地域	15	14	15	15	18	15	13	17	17	13	15	11	21
受入人数	33	28	39	58	62	64	67	65	94	59	29	28	93

(出典：大学での集計)

○交換留学(派遣)実績

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
派遣国・地域	10	13	12	17	15	16	14	14	21	8	14	20	20
派遣人数	23	31	38	65	57	60	53	40	74	18	29	68	77

(出典：大学での集計)

○日本語・日本文化特別研修 受入実績

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
コース数	3	5	5	6	7	12	11	11	8	3	6	6	9
受入人数	89	134	82	171	213	264	246	290	185	171	382	365	311

(出典：大学での集計)

○森戸国際高等教育学院3+1プログラム 受入実績

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
受入人数	26	90	146	159	43	56	90	131

(出典：大学での集計)

○ダブルディグリー協定 新規締結数

(件)

	H23年度以前	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
大学間協定	3	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
部局間協定	3	3	1	3	1	9	5	3	2	0	1	0	1

(出典：大学での集計)

大学等名	広島大学
⑤ 他の公的資金との重複状況【2 ページ以内】	
<p>以下の取組について経費措置を受けているが、いずれも今回の申請内容と類似していない。</p> <p>■大学改革推進等補助金</p> <p>○次世代のがんプロフェッショナル養成プラン 「地域をつなぐ未来世代のがん専門医療人養成」(R5-R10) 中国・四国地方9県全域にわたる 11 大学が連携し、「誰一人取り残さないがん対策」を推進できる人材育成を目指す。患者本位の全人的医療教育の発展、老年腫瘍学・腫瘍循環器学の教育科目の充実、ユニバーサルスクリーニングの導入等により、がん予防医療を推進できる医師やメディカルスタッフを養成する。</p> <p>○地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援 「連携で地域医療を支える薬学教育の構築 ～中高大接続から大学・行政・病院薬局連携でシームレスに地域を支えるヒロダイ薬学教育拠点～」(R5-R7) 中山間地域における薬剤師不足から持続的な医療提供が困難になっている状況を解決するために、地域医療連携協働体である「地域医療薬学コンソーシアム」と中山間地域の薬剤師を確保する「地域薬剤師配置システム」の構築、医療機関と学生・薬剤師を結ぶ全国初の「ヒロダイマッチングシステム」の開発、中学生・高校生から大学生までをシームレスに教育し U・I ターンを促進する「職域と県を超えた連携教育」、を行い、中高大接続と大学・行政・医療機関・薬剤師/医師連携でシームレスに地域医療を支える「ヒロダイ薬学教育拠点」を構築する。</p> <p>○高度医療人材育成事業(医師養成課程充実のための教育環境整備)(R5-R6) 医学生への教育環境の充実を図るため、最先端医療設備の整備を支援し、高度医療人材の養成に貢献する事業。ハイブリッド手術対応型血管 X 線撮影装置は、治療だけではなく、今後、大学病院が県内関連病院の医師、初期研修医を対象とするスキルアップセミナーにも使用する予定であり、地域医療の水準向上にも寄与でき、広範な診療分野において、診断治療ならびに関連手技の教育に使用するとともに、多様な研究にも活用されており、大学病院の教育、研究、診療の三位一体改革にも資する環境整備である。</p> <p>■研究拠点形成費等補助金</p> <p>○卓越大学院プログラム 「ゲノム編集先端人材育成プログラム」(H30-R6) ライフサイエンスコース(5年一貫)とメディカルコース(4年一貫)の2つのコースを設置し、ゲノム編集の基礎から応用に至る知識と技術を修得することにより、ゲノム編集を使いこなせる人材・ゲノム編集を産業へ直結させる人材を育成する。</p> <p>○デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業-X プログラム- 「人文社会科学分野における DX 推進エキスパート人材育成のための大学院新学位プログラム～教育データサイエンスプログラムとソーシャルデータサイエンスプログラムの設置～」(R4-R9) 人文社会科学分野の内、特に教育学や経済学・経営学の分野の専門性と数理・データサイエンス・AIの素養を併せ持つ人材を育成するため、教育データサイエンスプログラム、ソーシャルデータサイエンスプログラムの2つの学位プログラムを大学院人間社会科学研究科博士課程前期及び博士課程後期に設置する。新たに設置する2つの学位プログラムでは、他分野の専門家と協働して、産業界、学校現場、行政等におけるDXを強力に推進するエキスパート人材を輩出し、「総合知」による Society5.0 の実現の一端を担うべき人文社会科学分野の人材不足という課題の解決を目指す。</p> <p>○高度医療人材養成拠点形成事業(高度な臨床・研究能力を有する医師養成促進支援)(R6-R11) 中国四国地方におけるトップレベルの研究実績を基盤とした基礎と臨床の連携により、高度な臨床・研究能力を有する医師を養成する支援プログラム、国内大学唯一のGMP設備を有するGMP教育研究プログラム、大学敷地内に移転する放射線影響研究所と連携した世界随一の共同臨床研究拠点、を主軸に、医師の働き方改革の中でも、支援者活用による教育研究時間を確保する施策と体制を整備し、人材育成と国際的な教育研究拠点として医学・高度医療の持続的な発展と研究力の強化に貢献する。</p> <p>■国際化拠点整備事業費補助金</p> <p>○大学の世界展開力強化事業【アフリカ諸国との大学間交流形成支援】 「南北アフリカとの互恵的パートナーシップ構築のためのトライアングル海外学習プログラム」(R2-R6) 本学と北アフリカ4大学及びサブサハラ地域の2大学と共同で、アフリカのニーズと本学のシーズ及び強みが交差する「教育」、「保健医療」及び「食料安全保障」の専門教育を中心とした学生交流プログラムを実施する。質の高い経済発展を主導するとともに、日本とアフリカ間だけでなく、多様なアフリカ地域間の架け橋となり、多国間の国際的協調においてリーダーシップを発揮できる高度グローバル人材を日本とアフリカ双方に育成する。</p>	

(大学名： 広島大学) (タイプ： A)

○大学の世界展開力強化事業【アジア高等教育共同体(仮称)形成促進】

(タイプ B:新規コンソーシアム、①:CA プラスプログラム)

「インクルーシブ・マインドを醸成するアジア地域国際協働人材育成」(R3-R7)

本学と東アジア3大学の交流を基盤とし、東南アジア2大学を加えた6大学共同で、対面・同期オンライン・非同期オンラインを組み合わせたハイブリッド型による人材育成プログラムを実施する。障害の有無、平和観、宗教観、ジェンダー／マイノリティ観の違いから生じるコミュニケーションバリアを認識することで、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I:多様性の包摂、尊重)マネジメントが可能な人材を育成する。

○大学の世界展開力強化事業【インド太平洋地域等との大学間交流形成支援】

「国際協働学習を通じて醸成するアジャイル・アントレプレナーシップ」(R4-R8)

本学と英国・印度・豪州との4か国5大学共同で、対面・同期オンライン・非同期オンラインを組み合わせたブレンド型・ラーニングを採用し、学びと実践を繰り返す(アジャイル型教育)方式を用いた人材育成プログラムを実施する。カーボンニュートラル、SDGs、防災・減災等の世界的課題をそれぞれの地域文化や社会特性を持って主体的にアジャイル型学習を実施することで、アジャイル・アントレプレナーシップを備えたグローバルリーダーを育成する。

○大学の世界展開力強化事業「ASEAN 諸国からの留学生受入、定着促進のためのシステム構築等支援

「アジアと世界をつなぐ海洋・海事の最前線～海の平和利用と持続的発展～」(R5-R9)

主に ASEAN 諸国の海洋・海事系エンジニア及び海上保安・海洋政策を担当する政府職員等の高度人材の育成に資するような、教養教育科目1科目及び専門教育科目1科目で構成される海洋・海事領域教育の総合的な入門となる教育コンテンツを英語で作成し、JV-Campus(Japan Virtual Campus)上のコースとして世界に向け公開する。

■日本学術振興会国際交流事業

○二国間交流事業(共同研究・セミナー)

「加工造血幹細胞を用いた低酸素性虚血性脳症の新規治療法開発」(R2-R5 年度)

「バーレーツ海域における統合的海洋生態系評価のための統計的時空間推定手法の研究」(R3-R5 年度)

「ポータブル水素貯蔵反応器用のシリコン系軽量金属複合材料」(R4-R6 年度)

「持続可能な社会に向けた微生物固定を組み合わせたジオポリマーの有効性評価」(R4-R6 年度)

「閉鎖循環式陸上養殖における海洋性アナモックス細菌を用いた革新的窒素除去」(R5-R6 年度)

「バイオエアロゾル共同研究体制確立のための日本・チリ多機関連携セミナー」(R5 年度セミナー)

「持続可能な生理活性天然物獲得を指向したセブ島海域からの微生物探索と徹底的利活用」(R5-R6 年度)

「中国と日本在来のカヤツリグサ科植物の極限環境下での有機酸分泌によるリン吸収戦略」(R5-R7 年度)

「建築と橋梁の地震レジリエンスの評価方法と向上技術」(R5-R7 年度)

「がん患者に対する QOL を考慮した精神・行動療法及び看護介入の検討」(R5 年度セミナー)

「衛生微生物学的健全性の確保を目指した微生物・ラドンに基づく新換気指標の開発」(R5-R6 年度)

「南アフリカと日本における教授工学の知識を備えた教員養成の比較研究」(R5-R7 年度)

○研究拠点形成事業A. 先端拠点形成型

「先進エネルギー材料を指向したポリオキシメタレート科学国際研究拠点」(H31-R5 年度)

前周期金属が形成する酸性分子であるポリオキシメタレートについて、日本・イギリス・フランス・ドイツ・中国の5カ国で連携して研究を進め、先進エネルギー材料の創出を行うとともに、多国間共同研究を通じた若手人材育成・国際ネットワーク構築を目指す。

○研究拠点形成事業B. アジア・アフリカ学術基盤形成型

「SDGs 目標 B 型肝炎ウイルス排除を目指す若手疫学研究者国際連携ネットワーク形成」(R3-R5 年度)

世界視点で見た B 型肝炎ウイルス(HBV)高度浸淫地区:国(アジア:カンボジア及びアフリカ:ブルキナファソ)における HBV elimination の達成に貢献すべき若手研究者の育成をこれまでに構築した研究協力基盤を活かし、OJT(on the job training)を導入し、効果的に実施する。HBV 感染状況と治療実態の解明と、ワクチン等による HBV 母子感染予防対策の効果検証を行い、次世代対応策の構築を目指す。

○論文博士号取得希望者に対する支援事業

「人材マネジメントが教員の業績に与える影響に関する日本とカンボジア間の比較研究」

■2024 年度海外留学支援制度(協定派遣・協定受入)との関連

(独)日本学生支援機構海外留学支援制度(協定派遣・協定受入)の採択プログラム数は、双方向:2プログラム、派遣:15プログラム、受入:2プログラムである。本事業で実施する教育交流プログラムとは重複しない。

(大学名: 広島大学) (タイプ: A)

補助期間における各経費の明細【年度ごとに1ページ】

補助金申請ができる経費は、当該事業の遂行に必要な経費であり、本プログラムの目的である大学の世界展開力強化のための用途に限定されます。（令和6年度大学の世界展開力強化事業公募要領参照。）

(単位：千円)

＜2024年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	1,730		1,730	
	①設備備品費				
	・				
	・				
	②消耗品費	1,730		1,730	
	・ 授業用消耗品費	500		500	
	・ 事務用消耗品費	1,230		1,230	
	・				
	[人件費・謝金]	1,720		1,720	
	①人件費	1,600		1,600	
	・ プログラムコーディネーター雇用 (1人×400千円×4月)	1,600		1,600	
	・				
	・				
	②謝金	120		120	
	・ TA (2人×千円×60h)	120		120	
	・				
	[旅費]	9,500		9,500	
	・ 海外派遣旅費 (8人×500千円)	4,000		4,000	
	・ 海外招聘旅費 (11人×500千円)	5,500		5,500	
	・				
	・				
	・				
	・				
	[その他]	1,550		1,550	
	①外注費	500		500	
	・ ウェブサイト制作費	500		500	
	・				
	②印刷製本費				
	・				
	・				
	③会議費	1,000		1,000	
	・ キックオフミーティング開催費	1,000		1,000	
	・				
	④通信運搬費	50		50	
	・ 海外渡航時の機器レンタル	50		50	
	・				
	⑤光熱水料				
	・				
	⑥その他(諸経費)				
	・				
	・				
	・				
2024年度	合計	14,500		14,500	

(大学名： 広島大学)

(タイプ： A)

(前ページの続き)

(単位：千円)

＜2025年度＞ 経費区分		補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
[物品費]		130		130	
①設備備品費					
・					
・					
②消耗品費		130		130	
・ 授業用消耗品費 (IT関連用品含む)		60		60	
・ 事務用消耗品費		70		70	
・					
[人件費・謝金]		5,240		5,240	
①人件費		4,800		4,800	
・ プログラムコーディネーター雇用 (1人×400千円×12月)		4,800		4,800	
・					
・					
②謝金		440		440	
・ 外部評価委員 (4人×@50千円)		200		200	
・ TA (2人×千円×120h)		240		240	
・					
[旅費]		5,700		5,700	
・ 海外派遣旅費 (5人×500千円)		2,500		2,500	
・ 海外招聘旅費 (6人×500千円)		3,000		3,000	
・ 国内旅費 (4人×50千円)		200		200	
・					
・					
・					
[その他]		4,930		4,930	
①外注費					
・					
・					
②印刷製本費					
・					
・					
③会議費		200		200	
・ 運営委員会開催費		200		200	
・					
④通信運搬費		50		50	
・ 海外渡航時の機器レンタル		50		50	
・					
⑤光熱水料					
・					
⑥その他(諸経費)		4,680		4,680	
・ 学生派遣旅費 (4人×260千円)		1,040		1,040	
・ 学生受入旅費 (14人×260千円)		3,640		3,640	
・					
2025年度	合計	16,000		16,000	

(大学名： 広島大学)

(タイプ： A)

(前ページの続き)

(単位：千円)

<2026年度> 経費区分		補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
[物品費]		430		430	
①設備備品費					
・					
・					
②消耗品費		430		430	
・授業用消耗品費 (IT関連用品含む)		100		100	
・事務用消耗品費		330		330	
・					
[人件費・謝金]		5,240		5,240	
①人件費		5,040		5,040	
・プログラムコーディネーター雇用 (1人×400千円×12月)		4,800		4,800	
・TA (2人×千円×120h)		240		240	
・					
②謝金		200		200	
・外部評価委員 (4人×50千円)		200		200	
・					
・					
[旅費]		6,700		6,700	
・海外派遣旅費 (7人×500千円)		3,500		3,500	
・海外招聘旅費 (6人×500千円)		3,000		3,000	
・国内旅費 (4人×50千円)		200		200	
・					
・					
・					
[その他]		3,630		3,630	
①外注費					
・					
・					
②印刷製本費					
・					
・					
③会議費		200		200	
・運営委員会開催費		200		200	
・					
④通信運搬費		50		50	
・海外渡航時の機器レンタル		50		50	
・					
⑤光熱水料					
・					
・					
⑥その他 (諸経費)		3,380		3,380	
・学生派遣旅費 (9人×260千円)		2,340		2,340	
・学生受入旅費 (4人×260千円)		1,040		1,040	
・					
2026年度	合計	16,000		16,000	

(大学名： 広島大学)

(タイプ： A)

(前ページの続き)

(単位：千円)

<2027年度> 経費区分		補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
[物品費]			130	130	
①設備備品費					
・					
・					
②消耗品費			130	130	
・授業用消耗品費 (IT関連用品含む)			40	40	
・事務用消耗品費			90	90	
・					
[人件費・謝金]		4,800	440	5,240	
①人件費		4,800	240	5,040	
・プログラムコーディネーター雇用 (1人×400千円×12月)		4,800		4,800	
・TA (2人×千円×120h)			240	240	
・					
②謝金			200	200	
・外部評価委員 (4人×50千円)			200	200	
・					
・					
[旅費]		1,000	4,700	5,700	
・海外派遣旅費 (5人×500千円)		1,000	1,500	2,500	
・海外招聘旅費 (6人×500千円)			3,000	3,000	
・国内旅費 (4人×50千円)			200	200	
・					
・					
・					
[その他]		4,680	250	4,930	
①外注費					
・					
・					
②印刷製本費					
・					
・					
③会議費			200	200	
・運営委員会開催費			200	200	
・					
④通信運搬費			50	50	
・海外渡航時の機器レンタル			50	50	
・					
⑤光熱水料					
・					
⑥その他 (諸経費)		4,680		4,680	
・学生派遣旅費 (4人×260千円)		1,040		1,040	
・学生受入旅費 (14人×260千円)		3,640		3,640	
・					
2027年度	合計	10,480	5,520	16,000	

(大学名： 広島大学)

(タイプ： A)

(前ページの続き)

(単位：千円)

＜2028年度＞ 経費区分		補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
[物品費]			430	430	
①設備備品費					
.					
.					
②消耗品費			430	430	
・授業用消耗品費 (IT関連用品含む)			70	70	
・事務用消耗品費			360	360	
.					
[人件費・謝金]		5,000	240	5,240	
①人件費		4,800	240	5,040	
・プログラムコーディネーター雇用 (1人×400千円×12月)		4,800		4,800	
・TA (千円×2名×120h)			240	240	
.					
②謝金		200		200	
・外部評価委員 (4人×50千円)		200		200	
.					
.					
[旅費]		200	6,500	6,700	
・海外派遣旅費 (7人×500千円)			3,500	3,500	
・海外招聘旅費 (6人×500千円)			3,000	3,000	
・国内旅費 (4人×50千円)		200		200	
.					
.					
.					
[その他]			3,630	3,630	
①外注費					
.					
.					
②印刷製本費					
.					
.					
③会議費			200	200	
・運営委員会開催費			200	200	
.					
④通信運搬費			50	50	
・海外渡航時の機器レンタル			50	50	
.					
⑤光熱水料					
.					
.					
⑥その他 (諸経費)			3,380	3,380	
・学生派遣旅費 (9人×260千円)			2,340	2,340	
・学生受入旅費 (4人×260千円)			1,040	1,040	
.					
2028年度	合計	5,200	10,800	16,000	

(大学名： 広島大学)

(タイプ： A)